

農村家族ノ社會衛生學的考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31066

農村家族ノ社會衛生學的考察

金澤醫科大學衛生學教室(主任星野教授)

村上賢三

(本論文ノ一部ハ昭和二年九月十七日新潟ニ開カレタル第二十七回北陸醫學會及ビ昭和三年四月七日京都ニ開カレタル第二回衛生學、微生物學、寄生蟲學聯合學會ニ於テ發表セリ)

目次

一、緒言

二、調査方法

三、調査ノ結果並ニソノ考察

(一) 總括的觀察

- 1 婚姻年齡ニヨル分類
- 2 平均婚姻年齡並ニ男女婚姻年齡ノ差
- 3 婚姻ヨリ調査年月ニ至ル迄ノ年月ニヨル分類
- 4 子女數ニヨル分類
- 5 無兒配偶ト婚姻持續期間
- 6 婚姻ヨリ調査年月ニ至ル期間ト子女數
- 7 第一子出生時ノ父母ノ年齡
- 8 婚姻ヨリ第一子出生マテノ年月
- 9 婦人ノ婚姻年齡ト子女數
- 10 本調査時ノ婦人ノ年齡ト子女數

(二)

- 11 自小作農別ト子女數
- 12 出産ノ間隔並ニ出産順位ト子女ノ死亡率
- 13 子女數ニヨル配偶ノ分類並ニソノ死亡率
特殊ナル配偶ニ就キテノ觀察
- 1 婚姻後二十ヶ年以上ヲ經タル配偶ニ就キテノ觀察
- (1) 婚姻年齡ニヨル分類
- (2) 無兒配偶數
- (3) 平均子女數並ニ子女ノ死亡率
- 2 婚姻後二十ヶ年以上ヲ經過シタル年齡四十五歲以上ノ婦人ニツキテノ觀察
- (1) 婚姻年齡ニヨル分類
- (2) 無兒配偶數
- (3) 各年齡階級ニ於ケル子女數
- 3 十四歲以下ノ子女ヲ有スル配偶ニ就キテノ觀察
- 4 血族婚姻ニ關スル觀察

- (1) 血族婚姻ノ頻度
 - (2) 血族婚姻ト子女數
 - (3) 血族婚姻ニヨル子女ノ死亡率
- 標準世帯トシテノ一家五人說(配偶三兒說)ノ可否ニ就キテ

四、總括
五、結論
文獻

一、緒言

凡ソ社會的生活ノ上ニ現ハルル種々ナル社會的現象ヲ觀察スルコト、即社會ノ現狀(Ist Zustand)ヲ、ソノ在ルガマニ靜的ニ研究スル事ハ難テソノ社會ノ缺陷ヲ滿タシ、不健康ヲ除カントスル改善ノ方策ヲ探究樹立スルコト即チソノ社會ノ當爲狀態(Soll Zustand)ヲ研究スルニ向ツテ重要ナル根本資料ヲ提供スルモノナリ。而モ今日社會改革ノ基調ヲヨリ多ク生物學的及ビ社會衛生學的原則ニ求メントシツツアルハ識者ノ等シク認ムル所ナリ。

余ハ以上ノ見地ヨリ最近殊ニ各方面ノ人々ヨリ所謂「農村問題」トシテ深ク注意セラレツツアル農村ニツキ、ソノ家族關係ヲ調査シ、之ガ社會衛生學的考察ヲ試ミタリ。

而シテ余ハ主トシテ農村家族ノ「平均婚姻年齡」、「平均子女數」、「婚姻年齡ト子女數トノ關係」、「婚姻持續期間ト子女數トノ關係」、「無兒配偶率」、「血族婚姻ノ頻度」及ビ「子女ノ死亡率」等ニツキテ觀察セリ。余ハ以下述ブル結果ヲ以テ直チニ斷定的結論ヲ與ヘントスルモノニハ非ズ。調査シタル事項ヲアルガママニ叙述シ、以テ將來コノ方面ニ對スル研究の興味ヲ刺戟セントスルモノナリ。

二、調査方法

一、調査材料……大規模ナル調査ハ到底一時ニ個人ノ力ヲ以テシテハ完成スルコト困難ナルガ故ニ余ハ研究ノ第一

歩トシテ調査上最モ便宜ナル余ノ郷里三重縣度會郡穗原村ニツキテ調査ヲ行ヘリ。

穗原村ハ三重縣南部ノ一農村ニシテ四圍山ヲ以テ圍マレ、唯僅ニ一少部分ヲ以テ海ニノゾメリ。ソノ世帯數四百四十一ニシテ總人口二千百八十八人(大正十四年國勢調査)ヲ有セリ。生活ハ極メテ單調ニシテ社會ヲ組織スル成員タル住民ノ大部分(本籍ヲ有スル者)ハ長ク同地ニ住シ、コノ地方ノ種々ナル影響ヲ受ケ一定ノ風俗、習慣、道德、信仰ヲ有セリ。

二、調査期間……昭和二年八月三日ヨリ同年十月二十五日ニ至ル期間ニ於テ調査セリ。

三、調査範圍……本調査ノ範圍ハ當時、夫又ハ妻ノ何レカガ穗原村ニ本籍ヲ有スル者全體ヲ計上セリ。從ツテ普通ノ婚姻タルト入夫婚姻タルト、但シハ婿養子婚姻タルト其婚姻ノ種別ハ考慮セザリキ。

材料トシテ不適當ナルモノ即再婚者、死別者、離婚者ハ調査材料ヨリ除去シ、調査當時配偶ノ男女共生存シ且互ニ初婚ナルモノノミニツキ調査セリ。

四、調査方法……今日一般ニ用ヒラルル調査ノ方法トシテハ調査者自身ガ調査對象タル家族ヲ直接訪問シ對話法ニヨツテ被調査者ヨリ調査事項ヲ聽取スル實地踏査ノ方法、又ハ通信法ニヨツテ調査事項ノ記入ヲ求ムル方法ヲトシ、直接調査ト官廳ノ公簿ニ就テ調査スベキ必要事項ヲ調査スル間接調査トノ二種ノ方法アリ。

前者ハ後者ニ比シ社會現象ノ事實ヲ精確ニ調査シ得ラルルモ廣キ範圍ニ亘ツテ調査スルニハ多數ノ人々ヲ必要トシ、ソノ多數ノ人々ヲシテ調査ノ目的ヲヨク理解セシムルコトハ困難ナル場合多シ、且ツ多クノ時ト勞力ト經費トヲ必要トスルガ故ニ個人的ノ研究トシテハ不可能ナル場合多シ。然ルニ公簿ニヨル間接調査ニアリテハ官廳ノ既成調査簿ニヨリテ必要ノ事項ヲ拔萃スルノミナルヲ以テ個人ノ努力ニテモ或程度ノ目的ヲ達スル事ヲ得。然レドモ官廳ノ既成調査簿ハ多クハ申告ノ形式ニヨリテ作製セラレタルヲ以テ届ケ出洩レ、又ハ虛偽ノ申告等ノ爲ニ社會ノ事實ト幾許カノ距離アルハ免レ難キ點ナリ。⁽⁴⁾⁽¹⁵⁾

余ハ以上ノ二ツノ方法ヲ折衷セル方法ニヨリテ、互ノ短ヲ去リ長ヲ取リテ本調査ヲ行ヒタリ。即特別ニ、「調査小票」ナルモノヲ作製シ、コレニ「調査ノ年月日」、「姓名」、「職業」、「住所」、「夫及ビ妻ノ生年月日」、「婚姻ノ年月日」、「血族關係」並ニ「子女ノ性及ビ出生死亡ニ關スル項」ヲ設ケ、コレヲ先ヅ村役場ノ戶籍簿ニツキテ一々記入シ、更ニ不明瞭、不完全ト思ハルルモノハ家庭訪問、直接訊問及ビ通信等ノ方法ニヨリテ再調査ヲ行ヒ補正セリ。

實地調査終了後ハ一々小票ヲ點檢シ、不適當ナル材料ハ除去シ、遂ニ完全ナル調査小票四百四枚ヲ得タリ。即四百四組ノ配偶數ヲ得タルナリ。

三、調査ノ結果並ニソノ考察

(一)、總括的觀察

最初ハ四百四組ノ配偶全體ニツキテ調査ノ結果ヲ觀察セリ。

1、婚姻年齡ニヨル分類

本調査ニ取扱ヒタル材料ノ婚姻年代ハ明治四年(一八七一年)ヨリ昭和二年(一九二七年)ニ跨ガレルモ、ソノ大部分(八九六%)ハ明治二十四年(一八九一年)ヨリ昭和二年(一九二七年)ニ至ル三十六年間ニ於テ婚姻セルモノナリ。(第一表)然シテ之ヲ男女ノ婚姻年齡ニヨリテ分類スレバ第二表及ビ第三表ノ如シ。

男子ニアリテハ第二表ニ示スガ如ク十九歳ヨリ漸次婚姻ノ數ヲ増シ、二十三歳乃至二十五歳ニ於テ最高婚姻率ヲ示シ、二十五歳ヨリヤ減少シ始メ、三十歳以後ニ於テハ更ニ漸次減少スルヲ示セリ。

第一表

結婚ノ年代	婚姻數	%
1871-1890 (明治4年-明治23年)	42	10.4
1891-1910 (明治24年-明治43年)	118	29.2
1911-1927 (明治44年-昭和2年)	244	60.4
計	404	100.0

第二表

男ノ届出婚姻年齢

婚姻年齢	婚姻數	百分比
滿17歲-未滿	7	1.73%
17歲-18歲	18	4.46
18歲-19歲	8	1.98
19歲-20歲	18	4.46
20歲未滿小計	51	12.62
20歲-21歲	25	6.19
21歲-22歲	36	8.91
22歲-23歲	41	10.15
23歲-24歲	43	10.64
24歲-25歲	43	10.64
20歲-25歲小計	188	46.53
25歲-26歲	31	7.67
26歲-27歲	26	6.44
27歲-28歲	30	7.43
28歲-29歲	17	4.21
29歲-30歲	9	2.23
25歲-30歲小計	113	27.97
30歲-35歲	33	8.17
35歲-40歲	13	3.22
40歲以上	6	1.49
30歲以上小計	52	12.87
合計	404	100.00

注意：年齡ノ算定ハ出生ノ日ヲ起算日トシテ計算セリ、以下皆之ニ同ジ。

第三表

女ノ届出婚姻年齢

婚姻年齢	婚姻數	百分比
滿15歲-未滿	7	1.73%
15歲-16歲	18	4.46
16歲-17歲	34	8.42
17歲-18歲	50	12.38
18歲-19歲	48	11.88
19歲-20歲	51	12.62
15歲-20歲小計	201	49.75
20歲-21歲	44	10.89
21歲-22歲	32	7.92
22歲-23歲	20	4.95
23歲-24歲	15	3.71
24歲-25歲	25	6.19
20歲-25歲小計	136	33.66
25歲-26歲	17	4.21
26歲-27歲	9	2.23
27歲以上	34	8.41
25歲以上小計	60	14.85
合計	404	100.00

而シテ男子二十歲未滿ノ婚姻ハ全體ノ一二・六二%ニシテ二十歲ヨリ二十五歲迄ニ於テハ四六・五三%即全體ノ半數ニ近キ率ヲ示シ、三十歲迄ニハ全體ノ八七・二二%ノ婚姻率ヲ示セリ。

女子ニアリテハ第三表ニ示スガ如ク、十五歲ヨリ急ニ婚姻ノ數ヲ増シ十七歲乃至二十歲ニ於テ最高婚姻率ヲ示シ、二十歲以後ハハヤ急ニ減少スルヲ示セリ。

而シテ女子十七歲未滿ノ婚姻率ハ一四・六一%ニシテ、十五歲ヨリ二十歲迄ニ於テ四九・七五%即全體ノ半數ニ近キ者婚姻シ、二十五歲迄ニハ八五・一五%ノ婚姻率ヲ示セリ。以上ノ第二表及ビ第三表ヨリ、男女婚姻年齢別ニヨル婚姻

第四表 (一)

夫妻相互ノ年齢ニ依リ分チタル婚姻
(1871-1890)

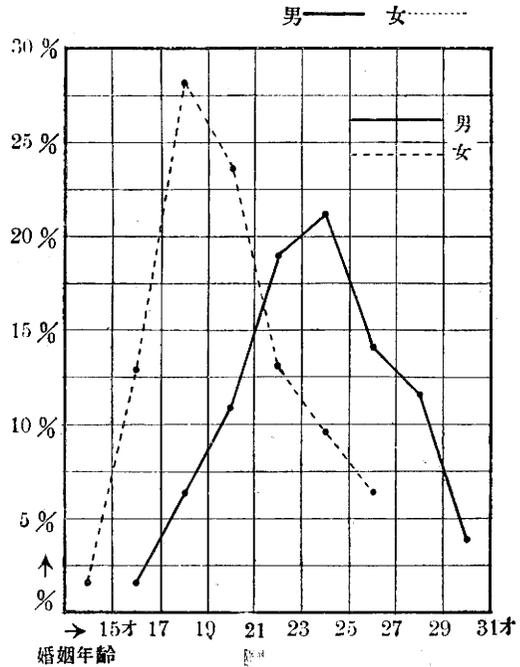
計	二十歳以下	二十歳以上 二十五歳以下	二十五歳以上 三十歳以下	三十歳以上 三十五歳以下	三十五歳以上 四十歳以下	夫	
						妻	計
三	一	二	一	一	一	以十五歳以下	一
二四	五	三	六	一	一	十五歳以上 二十歳以下	一
一三	三	五	五	一	一	二十歳以上 二十五歳以下	一
一	一	一	一	一	一	二十五歳以上 三十歳以下	一
一	一	一	一	一	一	三十歳以上 三十五歳以下	一
四二	一〇	二〇	二二	一	一	計	二

第四表 (二)

夫妻相互ノ年齢ニ依リ分チタル婚姻
(1891-1910)

計	二十歳以下	二十歳以上 二十五歳以下	二十五歳以上 三十歳以下	三十歳以上 三十五歳以下	三十五歳以上 四十歳以下	四十歳以上 四十五歳以下	四十五歳以上 五十歳以下	夫	
								妻	計
四	一	一	一	一	一	一	一	以十五歳以下	一
六二	一	一	一	一	一	一	一	十五歳以上 二十歳以下	一
三五	一	一	一	一	一	一	一	二十歳以上 二十五歳以下	一
一一	一	一	一	一	一	一	一	二十五歳以上 三十歳以下	一
五	一	一	一	一	一	一	一	三十歳以上 三十五歳以下	一
一一	一	一	一	一	一	一	一	計	一
一八	一	三	七	三五	五五	一七	一		

第一圖 男女婚姻年齢別婚姻率



原著 村上 農村家族ノ社會衛生學的考察

率ヲ曲線ヲ以テ書ケバ第一圖ノ如シ。
茲ニ特ニ注意スベキハ本材料四百四配偶中ニ法定婚姻
年齢ニ達セズシテ婚姻セル男女合計十二人ヲ有スルコト
ナリ。即全體ノ一・四九%ハ法定婚姻年齢ニ達セズシテ婚
姻セルモノナリ。以上ノ十二例中十一例ハ明治三十五年
婚姻年齢ニ關スル「男ハ滿十七年女ハ滿十五年以上タル
コト」(民法第七六五條)トノ法律施行以前ニ婚姻セルモ
ノニシテ一例ハ明治三十五年以後ニ於テ婚姻セルモノナ
リ。

第四表 (四)

夫妻相互ノ年齢ニ依リ分チタル婚姻
(1871-1927)

計	夫										妻
	六十歳	五十歳	四十歳	三十五歳	三十歳	二十五歳	二十歳	二十歳下	二十歳	二十歳下	
七					一	三	三				以十五歳下
二〇一				五	四六	一一五	三五				十五歳
一三六			四	一三	四七	五九	一三				二十歳
三七		一	三	〇	一五	八					二十五歳
一三			五	三	四	一					三十歳
八	一	三	一	一		二					三十五歳
二		一									四十歳
四〇四	一	五	一三	三三	一一三	一八八	五一				計

第四表 (三)

夫妻相互ノ年齢ニ依リ分チタル婚姻
(1911-1927)

計	夫										妻
	六十歳	五十歳	四十歳	三十五歳	三十歳	二十五歳	二十歳	二十歳下	二十歳	二十歳下	
											以十五歳下
一一五						三	二七	六九	一六		十五歳
八八				四	一一	三〇	三七	六			二十歳
二五		一	二	八	九	五					二十五歳
七			三	二	二						三十歳
七	一	二	一	一	二						三十五歳
二		一									四十歳
二四四	一	四	一〇	二六	六八	一一三	二二				計

原著 村上 農村家族ノ社會衛生學的考察

次ニ夫妻相互ノ年齢ニヨリテ婚姻ヲ分テバ第四表ノ如シ。而シテ第四表(一)―(三)迄ハ第一表ニヨル婚姻年代別ニテ分テタルモノニシテ(四)ハ全體ノ場合ナリ。即第四表ニ示スガ如ク夫二十歳乃至二十五歳、妻十五歳乃至二十歳ノ組合セニ於テ婚姻スルモノ最モ多キヲ認ム。

今第四表(四)ヨリ諸年齢階級ニ於ケル男女婚姻當事者ガ各如何ナル年齢階級ノ相手方ヲ得タルカノ割合(百分比例)ヲ一々算出シテ第五表(一)、(二)ヲ得タリ。

之ニヨリテ觀レバ、男子ハナルベク自己ヨリモ年下ニシテ然カモ、アマリ年齢ノ隔リナキ女子ヲ求ムル傾キアリ。女子ハ概シテ自己ヨリモ同年配以上ニシテ然カモ

第五表 (一)

夫ノ年齢ニ對シ妻ノ年齢ノ配合割合

夫	妻									
	以二十歳下	二十歳	二十五歳	三十歳	三十五歳	四十歳	四十五歳	五十歳	六十歳	計
以二十歳下	五・九	六八・六	二五・五							一〇〇・〇
二十歳	一・六	六一・二	三一・四							一〇〇・〇
二十五歳	〇・九	四〇・七	四一・六							一〇〇・〇
三十歳		一五・〇	三九・四							一〇〇・〇
三十五歳			三〇・八							一〇〇・〇
四十歳			二〇・〇							一〇〇・〇
四十五歳										一〇〇・〇
五十歳										一〇〇・〇
六十歳										一〇〇・〇
計										一〇〇・〇

第五表 (二)

妻ノ年齢ニ對シ夫ノ年齢ノ配合割合

妻	夫									
	以二十歳下	二十歳	二十五歳	三十歳	三十五歳	四十歳	四十五歳	五十歳	六十歳	計
以二十歳下	四二・九	四二・九	一四・三							一〇〇・〇
二十歳	一七・四	五七・二	二二・九							一〇〇・〇
二十五歳	九・六	四三・四	三四・六							一〇〇・〇
三十歳		二一・六	四〇・五							一〇〇・〇
三十五歳		七・七	三〇・八							一〇〇・〇
四十歳		二五・〇	一二・五							一〇〇・〇
四十五歳			一・二							一〇〇・〇
五十歳										一〇〇・〇
六十歳										一〇〇・〇
計										一〇〇・〇

齡ト、特殊配偶即無兒配偶及ビ一兒配偶ヲ除キタルモノニツキテノ平均婚姻年齡、

餘リ年齡ノ隔リナキ男子ニ最モ多ク嫁スル趣アリ。

2、平均婚姻年齡並ニ

男女婚姻年齡ノ差

男女平均婚姻年齡ノ算定ニ當リ單位ハ年ヲ以テ現ハセリ。而シテ小數點以下ノ數オモナルベク正確ニ求ムル目的ヲ以テ、男女各々ノ滿ヲ以テアラワセル婚姻年齡ノ年、月、日ヲ各別々ニ加算シ、年ハソノ人數ニテ除シ、月ハ人數ニ十二(月)ヲ乗ジタル數ニテ除シ、日ハ人數ニ三百六十五(日)ヲ乗ジタル數ニテ除シ、最後ニ之等各商ヲ加算シテ平均婚姻年齡ヲ算出セリ。

最初ハ調査材料四百四配偶全體ニツキテノ男女各々ノ平均婚姻年齡及ビ特殊配偶ニオケル平均婚姻年齡

齡トヲ算出シ互ニ比較セリ。(第六表一、三)

第六表 平均婚姻年齡

(一)、平均届出婚姻年齡*

		全體ノ場合	無兒配偶ヲ除キタル場合	無兒並一兒配偶ヲ除キタル場合
平均婚姻年齡	男	年 24.86	年 24.35	年 24.00
	女	年 20.95	年 20.43	年 20.29
配偶數		404	355	300

(二)、 α ニヨリ補正セル平均婚姻年齡

		全體ノ場合	無兒配偶ヲ除キタル場合	無兒並一兒配偶ヲ除キタル場合
平均婚姻年齡	男	年 24.38	年 23.80	年 23.45
	女	年 20.46	年 19.38	年 19.65
配偶數		404	355	300

(三)、特殊配偶ノ平均婚姻年齡

		無兒配偶	一兒配偶
平均婚姻年齡	男	年 28.54	年 26.26
	女	年 24.70	年 21.66
配偶數		49	55

(四)、 α **

配偶總數	α ニヨリ補正シ得ル配偶		α ノ平均値
	配偶數	%	
404	236	58.4	年 0.48

** α = (事實上ノ婚姻期間) - (戸籍上ノ婚姻期間 + α)
 α ハ事實上ノ婚姻ヨリ第一子妊娠迄ノ年月ナリ

注意 * 特別ノ記載ナキ限り平均婚姻年齡トハ平均届出婚姻年齡ノ意味ナリ。以下皆之ニ同ジ。

曩ニ岡崎氏⁽¹⁰⁾モ注意セルガ如ク戸籍上ノ婚姻年齡ト事實上ノ婚姻年齡トガ全ク一致セル場合ニ統計研究ニ於テ取扱ハルル婚姻年齡ハ極メテ正確ナルモノトナレドモ戸籍上ノ婚姻年齡ト事實上ノ婚姻年齡トハ必ズシモ一致セザル場合多シ。即婚姻ソレ自體ハ個人ノ自由意志ニ基キテ行ハレ、戸籍上ノ届出期間ノ如キモ亦個人ノ自由裁量ニ委ネ、法律ハ事實上ノ婚姻ト同時ニ届出ツ可キコトヲ強制シ居ラズ、即玆ニ所謂内縁關係ノ存在スル所以ナリ。我國ニ於テハ由來妊娠ノ事實明白トナルニ及ビテ、初メテ婚姻ニ關スル法律上ノ手續ヲ取ル慣習存セリ。故ニ事實

上ノ婚姻年齡又ハ婚姻期間ト戸籍上ノソレ等トノ間ニ存スル間隔ヲ正確ニ測定スルニハ、婚姻當事者ニ就キテ尋問調査スルノ外ニ方法ナシ。然モ尙時ニハ婚姻當事者自身ニ於テスラ正確ナル年月ヲ記憶セザルコトアリ。カカル場合ニ於テハ事實上ノ婚姻ノ時期ヲ正確ニ知ル事ハ極メテ困難事ニ屬ス。然レドモ茲ニ一ツノ假定ヲ設クルナラバ戸籍上ノ婚姻年齡ガ事實上ノ婚姻年齡ト幾何ノ程度ニ一致セザルカラ統計的ニ觀察スルコトヲ得ルナリ。

今假リニ出産届出ノ時期ハ可ナリ正確ナルモノトセバ、(初回妊娠ノ流産又ハ死産ハ度外視ス)第一子出産ノ時期ヨリ溯リテ第一子妊娠ノ時期(出産ヨリ平均九ヶ月ヲ溯リ)ヲ求メ、コレト婚姻届出ノ時期トノ間隔ヲ調査スルコトニヨリテ戸籍上ノ婚姻時期ノ正確度ヲ或程度迄補正スルコトヲ得ベシ。コノ補正值ヲ今假リニ以テシ、事實上ノ婚姻ヨリ第一子妊娠迄ノ期間ヲ以テスレバ事實上ノ婚姻期間ハ、戸籍上ノ婚姻期間ニ以テトヲ加ヘタルモノナリ。而シテ事實上ノ婚姻年齡ハ戸籍上ノ婚姻ノ年齡ヨリ以テトヲ除シタルモノナリ。

戸籍上ノ婚姻年齡ニ以テシテ、(又ハ)

勿論以上ハ子女ヲ有スル配偶ニツキ補正シ得ルノミナル事ハ言ヲマタズ。

本調査材料ニ於テモ婚姻届出ヲ第一子妊娠後又ハ出産後ニナセルモノ殆ド過半數ヲ占ム。即チ以テ補正シ得ルモノハ四百四配偶中二百三十六配偶(五八・四%)ニシテ、無兒配偶四十九ヲ除キタル三百三十五配偶ニ對シテハ六六・五%ヲ占ム。然シテ以テ平均値ハ〇・四八年ナリ。(第六表(四))

コノ値ヲ以テ補正セル男女平均婚姻年齡ハ第六表(二)ニ示スガ如シ。

第六表ニ示スガ如ク四百四配偶全體ニ於ケル男女平均届出婚姻年齡ハ男二四・八六年ニシテ、女二〇・九五年ナリ。之ヲ以テ補正セバ男二四・三八年、女二〇・四六年トナル。又特殊配偶ナル無兒配偶及ビ一兒配偶ノ平均婚姻年齡ハ無兒配偶ニ於テハ男二八・五四年、女二四・七〇年ニシテ一兒配偶ニ於テハ、男二六・二六年、女二一・六六年ナリ。

コレ等特殊配偶者ニ於テ、殊ニ無兒配偶者ニ於テ平均届出婚姻年齡高キハ、前述セル如ク一般ノ婚姻届出ハ妊娠開

始ヲ以テ始メテ行ハルル場合多ク、從ツテ無兒ノ場合ニハ自然ソノ手續オクルル爲ナラン。

第七表
(一) 男女婚姻年齢ノ差

配偶數	男女婚姻年齢ノ差				男女婚姻年齢差ノ平均値		
	男ノ年齢大ナル者		女ノ年齢大ナル者		男ノ年齢大ナル者	女ノ年齢大ナル者	全體
	實數	%	實數	%	* (十)	* (-)	* (十)
404	336	83.2	68	16.8	年 5.25	年 2.66	年 3.91

* 男ノ年齢大ナル者ヲ(十)トシ女ノ年齢大ナルモノヲ(-)トセリ。

(二) 平均婚姻年齢(初婚)並ニ男女婚姻年齢ノ差

研究者	村 上	※ 内閣統計局	※ 高 野	△ 内閣統計局	
年 代	1871-1927 (明治4年-昭和2年)	1899 (明治32年)	1908-1910 (明治41年-43年)	1926 (大正15年-昭和元年)	
平均婚姻年齢	男	年 24.86	年 24.09	年 26.82	年 26.9660
	女	年 20.95	年 20.87	年 22.93	年 22.9770
男女婚姻年齢ノ差	年 3.91	年 3.22	年 3.89	年 3.9890	

※ 全國平均 - △ 三重縣平均

(三) 我國ニ於ケル平均婚姻年齢及ビ男女婚姻年齢ノ差 (内閣統計局)

年 次	初 婚 年 齡			婚 姻(再婚ヲフクム)年齢		
	夫	妻	夫妻ノ差	夫	妻	夫妻ノ差
明 治 32 年	—	—	—	27.579	22.981	4.598
〃 37 年	—	—	—	27.882	23.473	4.409
〃 42 年	26.880	22.922	3.958	28.564	23.907	4.657
大 正 3 年	27.091	22.975	4.116	28.708	23.985	4.723
〃 8 年	27.432	23.295	4.137	29.218	24.342	4.876
〃 11 年	27.070	23.006	4.064	28.808	23.976	4.832
〃 12 年	26.991	23.023	3.968	28.635	23.934	4.751
〃 13 年	27.055	23.085	3.970	28.732	23.992	4.740
〃 14 年	27.088	23.120	3.968	28.756	24.017	4.739
大 昭 正 和 15 元 年	27.127	23.070	4.057	28.765	24.005	4.760

故ニ全體ヨリ、コノ特殊配偶ヲ除キタルモノニツキテ平均婚姻年齡ヲ求ムレバ比較的眞ノ初婚年齡ニ近ヅク理ナリ。(第六表一)、(二參照)

次ニ男女婚姻年齡ノ差ハ第七表(一)ニ示スガ如ク、全體トシテハ、男子ノ婚姻年齡ハ女子ノ婚姻年齡ヨリ大ニシテ、ソノ差平均三・九一年ナリ。

本調査ニヨル男女平均婚姻年齡ト他ノ調査ノ成績トヲ比較スレバ第七表(二)、(三)ノ如シ。

次ニ婚姻年齡ガ時代ト共ニ多少變化スル事實ハ既ニ先人⁽¹⁴⁾⁽¹⁵⁾ニヨリ注意セラレタル所ニシテ、殊ニ近年ニ於ケル經濟事情ハ一般ノ人々ヲシテ晩婚ニ傾カシメツツアリ。(第七表三參照)

余ハ本調査材料ヲ提供セル農村ニ於テモコレト同様ニ、婚姻年齡ノ年代的變化アリヤ否ヲ明ニセント欲シ第一表ノ年代別ニヨル男女婚姻年齡ノ年代的變化ヲ觀察セリ。(第八表)

第八表ニ示スガ如ク本調査農村ニ於テモ年代ト共ニ、男女ノ婚姻年齡次第ニ増大スルヲ示セリ。然モンノ度ハ女子ヨリモ男子ニ於テ甚ダシク、ソノ結果ハ男女婚姻年齡ノ差ハ次第ニ大トナリツツアリ。

次ニ職業別殊ニ自作、小作農別ニヨル男女婚姻年齡ヲ比較觀察セリ。ソノ結果ハ第九表ニ示スガ如ク、一般ニ農業ハ其他ノ職業ヨリモ、男女共早婚ニシテ、農業ニ於テモ地主兼自作、及ビ自作ハ、自作及ビ小作ニ比シ男女共早婚ナルガ如シ。

3、婚姻ヨリ調査年月ニ至ル迄ノ年月ニヨル分類

婚姻ヨリ本調査時迄ノ年月、即本調査材料ニ於ケル婚姻持續期間ニヨリテ分テバ第十表ニ示スガ如ク、婚姻持續期間二十ヶ年以上ノ配偶ハ全體ノ三

第 八 表
年代別ニヨル男女婚姻年齡ノ比較

年 代	配偶數	男ノ平均婚姻年齡	女ノ平均婚姻年齡	男女婚姻年齡ノ差(十)
1871-1890 (明治4年-23年)	42	年 22.33	年 19.34	年 2.99
1891-1910 (明治24年-43年)	118	年 24.29	年 20.57	年 3.72
1911-1927 (明治44年-昭和2年)	244	年 25.66	年 21.51	年 4.15
計	404	年 24.86	年 20.95	年 3.91

第十表

婚姻持續期間ニヨル分類

婚姻持續期間	配偶數	%
滿 6ヶ月未滿	9	2.23
6ヶ月— 2年	24	5.94
2年— 5年	55	13.61
5年—10年	83	20.54
10年—15年	56	13.86
15年—20年	48	11.88
20年 以上	129	31.93
計	404	100.00

4、子女數ニヨル分類
 各配偶ヲソノ有スル子女數ニヨリテ分類スレバ第十一表ニ示スガ
 如ク、無兒配偶ハ一二・三%ヲ占メ、一兒配偶ハ、一三・六一%ヲ
 占ム。而シテ三兒以下ノ子女ヲ有スル配偶(無兒配偶モフクム)ノ總
 計ハ全數ノ五三・四七%、四兒以上ノ子女ヲ有スル配偶ハ全體ノ四
 六・五三%ニ當レリ。

第九表 職業別男女婚姻年齡ノ比較

職業別	配偶數	平均婚姻年齡		男女婚姻年齡ノ差 (+)	
		男	女		
農 業	地主 兼作	48	22.64	19.85	2.79
	自 作	131	23.68	19.91	3.58
	自 小 作	45	25.02	21.44	3.58
	小 作	65	24.94	20.83	4.11
	計	289	24.00	20.34	3.66
	其 他	*頭腦勞働者	30	27.41	20.81
*商業並ニ輕勞働者		31	27.13	22.03	5.10
*重勞働者		54	26.73	23.62	3.12
計		115	27.01	22.46	4.56
合 計	404	24.86	20.95	3.91	

* 注意: (1) 頭腦勞働者 30人 (3) 重勞働者 51人

官 吏	9.	日傭業	22.
宗教ニ關スル業	6.	大 工	13.
教育ニ關スル業	13.	紡績從業員	6.
醫務ニ關スル業	2.	鍛冶業	5.
(2) 商業並ニ輕勞働者 31		鐵道從業員	2.
物品販賣業	13.	炭坑從業員	2.
製版、印刷、製本業	1.	電氣工夫	1.
木竹ニ關スル製造業	3.	道路工夫	1.
旅宿飲食店	3.(-1)	漁 業	1.
化學工業	1.	消防夫	1.
被服身ノ廻品製造業	1.		
陸軍軍人(將校)	3.		
會社員並ニ事務員	5.		
自動車運轉手	1		
小學校小使	1.		

九三%ニシテ、十ケ年以上ノ配偶ハ全體ノ五七六七%、五ケ年以上ノ配偶ハ七八二一%ヲ占ム。

第十 一 表
子女ノ數ニヨル分類

子女數	配偶數	%
子女ナキ者	49	12.13
子女 1 人	55	13.61
2 人	57	14.11
3 人	55	13.61
3 人以下小計	216	53.47
4 人	45	11.14
5 人	43	10.64
6 人	39	9.65
7 人	26	6.43
8 人	15	3.71
9 人	11	2.72
10 人	8	1.98
11 人	1	0.25
4 人以上小計	188	46.53
合 計	404	100.00

5、無兒配偶ト婚姻持續期間
無兒配偶ナル四十九配偶ヲソノ婚姻持續期間ニヨリテ分テバ第十二表ニ示スガ如ク、婚姻持續期間二十ヶ年以上ノモノハ、二四四八%、十ヶ年以上ノモノハ、三八七六%、五ヶ年以上ノモノハ、五七一二%即過半数以上ヲ占ム。

第十二表 無兒配偶ノ分類

婚姻持續期間	配偶數	%
6ヶ月未満	7	14.29
6ヶ月—2年	4	8.16
2年—5年	10	20.41
5年—10年	9	18.37
10年—15年	4	8.16
15年—20年	3	6.12
20年 以上	12	24.48
計	49	100.00

6、婚姻ヨリ調査年月ニ至ル期間ト子女數

婚姻持續期間ノ長短ガ増殖ヲ左右スルコトハ既ニ明ナル事實ナルガ今余ノ材料ヲ右期間ノ長短ニ從ツテ分類スレバ第十三表ニ示スガ如ク婚姻持續期間増加スルニ從ヒ、一配偶ノ平均子女數モ亦増加スルヲ窺フコトヲ得。

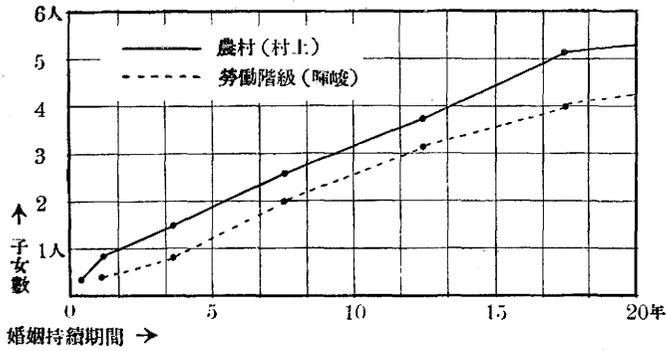
婚姻後五年乃至十年ヲ經タルモノハ約二六人。十年乃至十五年ヲ經過シタルモノハ約四人。十五年乃至二十年ヲ經過セルモノハ約五人。二

十ヶ年以上ノモノハ約四三人ノ平均子女數ヲ有スル結果ヲ示セリ。

以上ヲ曲線ヲ以テアラワシ、且曩ニ暉峻氏ガ勞働階級ノ婦人ニツキテ調査セル成績トヲ比較スレバ第二圖ノ如シ。即本調査ノ成績ハ暉峻氏ノ成績ニ比シ一般ニ平均子女數大ナルヲ認ム。

次ニ特殊ナル配偶、即チ無兒配偶及ビ一兒配偶ヲ除去シタルモノニツキテ觀察スレバ、婚姻持續期間ト平均子女數トノ關係ハ全體ノ場合ヨリモ一般ニ平均子女數大ナリ。(第十三表)

第二圖 婚姻持續期間ト子女數
(農村ト勞働階級トノ比較)



又本調査材料全體ニ於ケル一配偶ノ平均婚姻期間並ニ婚姻持續期間平均十年ニ對スル平均子女數ハ第十四表(一)ニ示スガ如クニシテ特殊配偶ニ於ケル、ソレ等ハ第十四表(二)ニ示スガ如シ。

原著 村上ニ農村家族ノ社會衛生學的考察

第十三表 婚姻持續期間ト子女數

婚姻持續期間	配偶數	子女數			無兒配數	一兒配數	一配偶平均子女數		
		男	女	計			全體ノ合	無兒配ニテ除キタル場合	無兒並ニ一兒配ニテ除キタル場合
6ヶ月未満	9	3	0	3	7	1	0.33	1.50	2.00
6ヶ月—2年	24	10	11	21	4	19	0.88	1.05	2.00
2年—5年	55	37	45	82	10	15	1.49	1.82	2.23
5年—10年	83	114	101	215	9	8	2.59	2.91	3.14
10年—15年	56	121	93	214	4	5	2.82	4.12	4.45
15年—20年	49	122	125	247	3	3	5.04	5.37	5.67
20年以上	128	331	342	673	12	5	5.26	5.80	6.02
合計	404	738	717	1455	49	56	3.60	4.10	4.68

第十四表 (一)、一配偶ノ平均婚姻持續期間並ニ婚姻持續期間平均10年ニ對スル子女數

	婚姻持續期間			〆ニテ補正セル婚姻持續期間		
	全體ノ合	無兒配ニテ除キタル場合	無兒並ニ一兒配ニテ除キタル場合	全體ノ合	無兒配ニテ除キタル場合	無兒並ニ一兒配ニテ除キタル場合
一配偶ノ平均婚姻持續期間	年 16.31	年 16.44	年 18.17	年 16.97	年 16.99	年 18.93
一配偶ノ婚姻持續期間平均10年ニ對スル子女數	人 2.27	人 2.49	人 2.57	人 2.20	人 2.41	人 2.47

第十四表

(二)、特殊配偶ノ平均婚姻持續期間

	無配偶	一兒配偶	一兒配偶
一配偶ノ平均婚姻持續期間	年 11.70	年 6.98	
配偶數	49	55	

7、第一子出生時ノ父母ノ年齡
 前述セルガ如ク戶籍上ノ婚姻ノ時期ト事實上ノ婚姻ノ時期トノ間ニハ一定ノ間隔アリ。之ヲ一程度迄補正スルニハ第一子出生時ノ父母ノ年齡ヲ知ルコト必要ナリ。
 又一方第一子出生時ノ父母ノ年齡ノ老若ハ第一子ノ死亡率ニ一定ノ關係ヲ有ス。故ニ余ハ本調査ニ於テモ第一子出生時ノ父母ノ年齡ヲ觀察セリ。

調査總數四百四配偶ヨリ子女ヲ有セザル四十九配偶ヲ除キタル三百五十五配偶ニツキ第一子出生時ノ父母ノ年齡ヲミルニ平均父ハ二五三二年、母ハ二一四三年ナリ。

然シテ一兒配偶ヲ除去スレバ、父ハ二四八七年、母ハ二一一年トナル。

一兒配偶者ニアリテハ之等兩者ノ場合ヨリモ、父母ノ年齡高ク、父ハ二七七九年、母ハ二二一九年ヲ示セリ。(第十五表參照)

8、婚姻ヨリ第一子出生迄ノ年月

婚姻ヨリ第一回出産マデノ年月ノ長短ハ婚姻當事者ノ健康狀態、男女ノ婚姻年齡、男女婚姻年齡ノ差、及ビ體質ノ如何ニヨリ差異アリ。(10)

本調査ニ於テモ婚姻ヨリ第一子出生迄ノ間隔ヲ見ント欲シ、四百四配偶中ヨリ子女ヲ有セザル四十九配偶ヲ除キタル三百五十五配偶ニツキテ觀察ヲ試ミタリ。(第十六表)

右ノ結果ニヨレバ婚姻後一ケ年未滿ニ第一子ヲ出産セシ者五八・九%、一ケ年ヨリ二ケ年未滿ノモノ一一・三%、二年以上ノモノ一八・〇%ヲ示セリ。尙茲ニ注意スベキハ婚姻届出以前ニ於テ既ニ第一子ヲアゲシ者一一・八%ニ及ベルコトナリ。

以上ノ成績ト暉峻氏ノ勞働階級婦人ニ於ケル成績トヲ比較スルニ第十六表ニ示スガ如

第十五表 第一子出生時ノ父母ノ年齡

		全體ノ場合	一兒配偶ヲ除キタル場合	一兒配偶
第一子出生時ノ年齡	父	年 25.32	年 24.87	年 27.79
	母	21.43	21.11	23.19
配偶數		355	300	55

第十六表 婚姻ト第一子出生トノ間隔

	村上(農村)		暉峻(労働者)	
	實數	%	實數	%
婚姻届出前ニ第一子ヲ出生セシ者	42	11.8	0	—
婚姻後1ケ年以内ニ第一子ヲ出生セシ者	209	58.9	371	36.5
婚姻後1—2年以内ニ第一子ヲ出生セシ者	40	11.3	360	35.4
婚姻後2ケ年以上ニ第一子ヲ出生セシ者	64	18.0	285	28.1
計	355	100.0	1016	100.0

ニ第一子ヲ出生スルモノハ六八%ニシテ以上兩者ノ成績トホボ近キ率ヲ示セリ。

9、婦人ノ婚姻年齢ト子女數

次ニ婦人ノ婚姻年齢ト子女數トノ關係ヲ見ルニ第十七表ノ如シ。之ニヨレバ十七歲未満ニテ婚姻セル婦人ノ平均子女數ハ最高ニシテ五・〇八人、十八歲乃至十九歲ニテ婚姻セルモノハ之ニ次ギ四・七〇人、十七歲乃至十八歲ハ四五・六人ニシテ更ニ之ニ次グ。之ヲ要スルニ滿十九歲未満ノ婚姻者ガ高キ出生數ヲ示セリ。

以上ノ結果ヲ曲線ニテ表ハセバ第三圖ノ如シ。

10、本調査時ノ婦人ノ年齢ト子女數

一般ニ出生數ハ婚姻當時ノ男女相互ノ年齢、殊ニ婦人ノ年齢ニ密接ナル關係アルハ勿論又ソノ婚姻持續期間ノ長短

ク、暉峻氏ニ於テハ婚姻後、第一年及ビ第二年ノ出生數ハ殆ド同一(各約三五%)ナルニ反シ、本成績ニ於テハ婚姻後第一年ノ出生數ハ五八・九%ニシテ過半数ヲ占メ、第二年ニハ急劇ニ減少シ僅ニ一一・三%ヲ占ムルニ過ギズ。コレ兩者ノ間ニ存スル、ヤヤ明ナル差異ナリ。

以上ノ差異ハ農村ト労働者トノ間ニ存スル固有ノ差異ナルヤ否ハ尙今後ノ研究ニマタザルベカラズ。

然レドモ兩者ニ於テ婚姻後二ケ年以内ニ第一子ヲ出生セル者ノ率ヲ比較スルニ暉峻氏ハ七一・九%、本成績ハ七〇・二%ニシテ、兩者ノ成績殆ド一致セルヲ認ムルナリ。即婚姻後二ケ年以内ニ第一子ヲアグル率ハ農村モ労働者モ殆ド同一ナリト云フヲ得ベキカ。

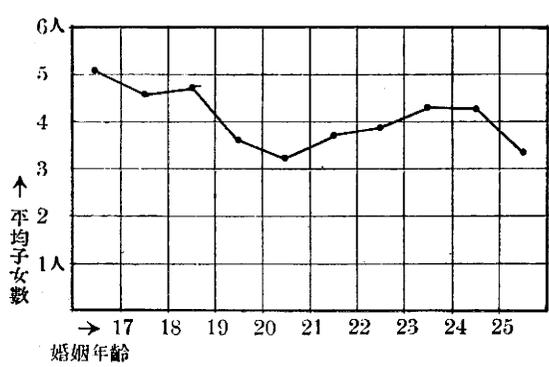
又田原氏⁽²⁾ガ一一・六人ノ材料ニテ調査セル成績モ、婚姻後二ケ年以内

第十七表 母ノ婚姻年齢ト子女數

婚姻年齢	一七歳未満	一七—一八	一八—一九	一九—二〇	二〇—二一	二一—二二	二二—二三	二三—二四	二四—二五	二五以上	合計
子女數											
1人	4	8	3	7	12	4	2	3	3	9	55
2人	6	4	6	12	8	6	3	4	1	7	57
3人	8	7	8	8	5	5	1	—	5	8	55
4人	5	9	7	6	5	3	5	1	—	4	45
5人	6	4	4	7	6	6	2	—	3	5	43
6人	5	6	7	3	4	2	3	2	5	2	39
7人	7	2	5	4	2	2	—	1	3	—	26
8人	4	—	4	2	1	—	1	1	—	2	15
9人	2	5	—	—	—	1	—	2	—	1	11
10人	4	2	2	—	—	—	—	—	—	—	8
11人	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
母ノ數	51	48	46	49	43	29	17	14	20	38	355
子女數計	259	219	216	176	139	108	67	60	86	125	1455
母對均子女數	5.08	4.56	4.70	3.59	3.23	3.72	3.94	4.29	4.30	3.29	4.10

時ノ婦人ノ年齢ト子女數トノ關係ヲ觀察セリ。(第十八表)
 之ニヨレバ二十歳乃至三十歳ノ年齢階級ニテハ出産數急激ニ増加シ、更ニ三十歳乃至四十歳階級ニ於テモ強キ増加

第三圖 母ノ婚姻年齢ト平均子女數



然レドモ實際ノ場合ニ當リ、以上ヲ以テスル
 出産數ノ標準ニ對シ單ニ婦人ノ年齢ヲ以テ、ソ
 ノ有スル子女數ニ對スル一ツノ標準トナシ得ラ
 ルルナラバ更ニ便宜ナリ。コノ事ニ關シテハ既
 ニ暉峻氏モ論述セル所ナルガ余モ亦茲ニ本調査

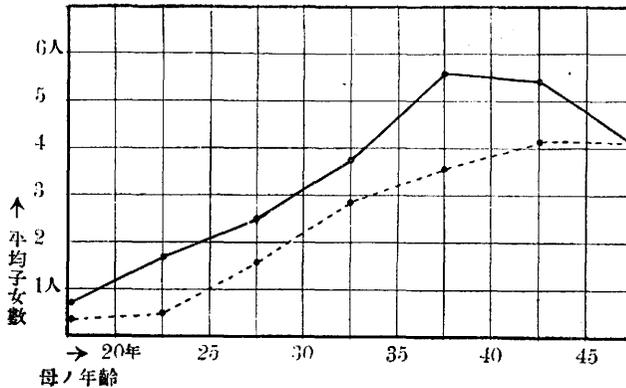
第十八表 本調査時ノ母ノ年齢ト子女數

母ノ年齢	配偶數	子女數			無兒配偶數	一兒配偶數	一配偶平均子女數		
		生存男女計	死亡男女計	合計			全體ノ場合	無兒配偶ヲ除キタル場合	無兒並ニ一兒ヲ除キタル場合
20以下	16	9	1	10	7	8	0.63 (0.28)	1.11	2.00
20-25	65	104	10	114	5	19	1.75 (0.50)	1.90	2.32
25-30	69	145	26	171	9	14	2.48 (1.53)	2.35	3.41
30-35	68	229	26	255	6	6	3.75 (2.86)	4.11	4.45
35-40	45	211	42	253	2	1	5.62 (3.54)	5.88	6.00
40-45	30	185	24	209	2	2	5.36 (4.09)	5.65	5.91
45-50	30	104	18	122	8	1	4.07 (4.10)	5.55	5.76
50以上	72	247	74	321	10	4	4.46 (4.27)	5.18	5.47
合計	404	1234	221	1455	49	55	3.60 (2.26)	4.10	4.67

()内ノ數ハ輝峻氏調査

ヲ示シ、コノ期ノ最後ニ於テ出産數ハ最高ニ達シ、次デ四十歳乃至五十歳階級ニ至リヤヤ低下セリ。
 コノ四十歳以上ノ年齢階級ニ於テ反ツテ一人平均子女數ノ減少ヲ示セルハ、本調査材料ニ於ケル四十歳以上ノ(調

第四圖 調査時ノ母ノ年齢ト平均子女數
 (農村ト労働階級トノ比較)



ニ因スルナラン。
 查當時) 婦人百十四人中子女ナキモノ二十一人ノ多キニ及ベル

以上ヲ輝峻氏ノ結果ト共ニ曲線ヲ以テ示セバ第四圖ノ如シ。

料ハ前述ノ理由ニテ一致セズ)

又コノ年齢階級ニ
 ヨル出産數ト婚姻持
 續期間ニヨリテ分チ
 タル出産數トヲ比較
 スレバ第十九表ノ如
 クニテ婦人ノ年齢四
 十歳迄ハ婚姻持續期
 間ニヨル出産數ト年
 齡階級ニヨル出産數
 トノ間ニハ密接ナル
 關係アルヲ認ム。
 (四十歳以上ノ年齢
 階級ニアリテハ本材

第十九表

		農村婦人ノ平均子女數
ケ月 (期間) 6-2ヶ年 (年) 20歳以下		人 0.61 0.63
〃	2-5年	1.49
〃	20-25歳	1.75
〃	5-10年	2.59
〃	25-30歳	2.48
〃	10-15年	3.82
〃	30-35歳	3.75
〃	15-20年	5.04
〃	35-40歳	5.62
〃	20ヶ年以上	5.26
〃	40-45歳	5.36
〃	—	—
〃	45-50歳	4.07
〃	—	—
〃	50歳以上	4.46

注意 1. (期間)…婚姻持續期間
(年)…年齢階級
2. 假ニ婚姻年齢ヲ滿18.9歳
-20歳ニアルモノトセリ

11、自、小作農別ト子女數

次ニ職業別、殊ニ自、小作農別ニヨル平均子女數ヲ觀察セリ。ソノ、結果ハ第二十表ノ如クニテ、農業ト其他ノ職業トヲ比較スレバ農業ハ平均子女數三・九人ナルニ對シ、其他ノ職業ハ二・八人ニテ農業遙カニ大ナリ。

又農業中、地主兼自作、自作、自小作及ビ小作ノ四ツニ區別シソレ等ノ平均子女數ヲ觀察スルニ、之等ノ間ニハ著明ナル差異アルヲ認メズ。

其他ノ職業中、頭腦労働者、商業並ニ輕労働者及ビ重労働者ノ三ツニ區別スレバ、コノ順序ニ平均子女數次第ニ増加セラルヲ認ム。即頭腦労働者ハ二・三人ニシテ商業並ニ輕労働者ハ二・七人、重労働者ハ三・一人ナリ。

第二十表 職業別ト子女數

職業別	配偶數	%	子女總數	無兒配 偶數	一兒配 偶數	平均子女數			女兒100 人ニ對ス ル男兒ノ 數	
						全體ノ 場合	無兒配 偶ヲ除 キタル 場合	一兒配 偶ヲ除 キタル 場合		
農 業	地主兼 自作	48	11.9	192	6	5	4.0	4.6	5.1	100.0
	自作	131	32.4	493	16	16	3.8	4.3	4.8	115.3
	自小作	45	11.1	179	5	4	4.0	4.5	4.9	115.7
	小作	65	16.1	274	3	7	4.2	4.4	4.9	86.4
	計	289	71.5	1138	30	32	3.9	4.4	4.9	105.0
其 他	*頭腦 労働者	30	7.4	68	6	8	2.3	2.8	3.8	100.0
	*商業並 輕労働者	31	7.7	83	6	4	2.7	3.3	3.8	88.6
	*重 労働者	54	13.4	166	7	11	3.1	3.5	4.3	97.6
	計	115	28.5	317	19	23	2.8	3.3	4.0	95.7
合 計	404	100.0	1455	49	55	3.6	4.1	4.7	102.9	

* 第九表ニ同ジ。

第二十一表 子女ノ間隔

	1ヶ年以内	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10ヶ年以上	計	平均間隔(年)
第1子:2子間	2 0.7	61 20.4	135 45.2	47 15.7	27 9.0	11 3.7	9 3.0	3 1.0	1 0.3	0 —	3 1.0	299 100.0	3.01
第2:3子間	0 —	37 15.3	116 47.9	49 20.2	21 8.7	9 3.7	3 1.2	3 1.2	1 0.4	1 0.4	2 0.8	242 100.0	3.09
第3:4子間	2 1.1	33 17.6	88 46.8	41 21.8	13 6.9	6 3.2	2 1.1	1 0.5	1 0.5	0 —	1 0.5	188 100.0	2.91
第4:5子間	0 —	19 13.5	55 39.0	44 31.2	10 7.1	5 3.5	4 2.8	3 2.1	0 —	1 0.7	0 —	141 100.0	3.13
第5:6子間	0 —	11 11.1	52 52.5	23 23.2	6 6.1	4 4.0	2 2.0	0 —	1 1.0	0 —	0 —	99 100.0	2.99
第6:7子間	1 1.6	9 14.8	30 43.2	13 21.3	6 9.8	1 1.6	0 —	0 —	1 1.6	0 —	0 —	61 100.0	2.91
第7:8子間	0 —	6 17.1	20 57.1	8 22.9	0 —	0 —	1 2.9	0 —	0 —	0 —	0 —	35 100.0	2.65
第8:9子間	1 5.0	2 10.0	9 45.0	5 25.0	2 10.0	1 5.0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	20 100.0	2.82
第9:10子間	0 —	3 37.5	4 50.0	0 —	0 —	1 12.5	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	8 100.0	2.48
計	6 0.5	181 16.6	509 46.6	230 21.0	85 7.8	38 3.5	21 1.9	10 0.9	5 0.5	2 0.2	6 0.5	1093 100.0	3.01

12、出産ノ間隔並ニ出産順位
ト子女ノ死亡率

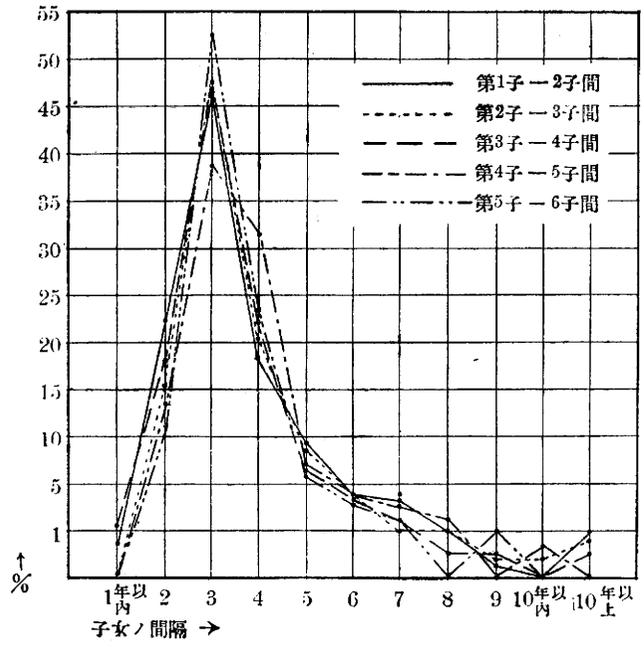
出産ノ間隔ハ婦人自己ノ健康ハ勿論、ソノ出生兒ノ成育上ニモ、又一家經濟ノ上ニモ至大ナル關係ヲ有スルモノニシテ、今日既ニ一部ノ人々ノ間ニハ、之ガ間隔ヲ適當ニ調節スルコトハ望マシク且必要ナルコトナリト唱ヘラレツツアリ。然レドモ農村ニ於ケル性的生活ハ理性的ニアラズシテ、ムシロ自然的ナルガ爲ニ彼等ノ間ニハ出産相次デ來ル状態ニアリ。

余ハコノ農村ニ於ケル出産ノ間隔ヲ統計的數字ヲ以テ明ニセント欲シ第二十一表ヲ得タリ。即ソノ結果ハ曩ニ暉峻氏が勞働階級婦人ニ於テ調査セル結果ト殆ド一致セリ。

第一子ヨリ第六子ニ至ル順次六出産ノ間隔ヲ見ルニ(第六子以上ハソノ出産數小ナルヲ以テ、除外セリ。)第一子ト第二子ノ出生間隔以下第五子ト第六子ノ間隔ニ至ル迄、最高率ヲ示スハ滿ニケ年以上滿三ケ年未滿ノ間隔ナリ。(三九%乃

至五二・五%ヲ占ム。滿一ケ年以上滿二ケ年未滿ノ間隔ハ一・二%乃至二・四%ヲ占メ、滿三年以上四年未滿ノモノハ一・五七%乃至三・二%ナリ。即滿二ケ年以上ノ間隔ヲ以テ出產スルモノノ數ハ滿二ケ年以下ノ間隔ヲ以テ出產スルモノノ數ヲ遙ニ凌駕セリ。

第五圖 子女ノ間隔



出產間隔ヲ曲線ヲ以テアラワセバ第五圖ノ如シ。

次ニ出生順位ト、ソレ等子女ノ死亡率トノ關係ヲ見レバ、(第八子迄ニツキテ。第八子以上ハ子女數少キヲ以テ除外セリ。)第二十二表及ビ第六圖ニ示スガ如シ。

暉峻氏が勞働階級婦人ニツキテ調査セル所ニヨレバ出產順位ノ上ルニ從ヒ死亡率モ亦上昇ストノ結果ナルガ本材

大約八三%ノ婦人ハ皆滿二ケ年以上ノ出產間隔ヲ有シ、滿二ケ年未滿ノ間隔ニテ出產スルモノハ約一七%ニ過ギズ。

次ニ第一子ヨリ第六子ニ至ル平均間隔(年)ヲ求ムルニ、第一子、第二子間ハ平均三・〇一年、第二子、第三子間ハ三・〇九年、第三子、第四子間ハ二・九一年、第四子、第五子間ハ三・二三年、第五子、第六子間ハ二・九九年ニシテ、之等各子女ノ出產間隔ハ殆ド皆近キ數ヲ示セリ。然シテ全體ノ平均間隔年ハ三・〇三年ナリ。

コノ結果ハサキニ鳴海氏⁽⁹⁾ガ婦人ノ受胎周期性ハ三年型婦人ヲ以テ標準トナストセラレタルニ一致セリ。

第二十二表 出産ノ順位ト子女ノ死亡率 (其一)

		第一子	第二子	第三子	第四子	第五子	第六子	第七子	第八子	第九子	第十子	第十一子	合計
生存者	男女	140	132	98	79	66	54	28	8	8	4	1	618
	男女	161	124	97	80	58	35	23	20	9	5	0	612
	計	301	256	195	159	124	89	51	28	17	9	1	1230
死亡者	男女	23	24	25	15	11	6	5	2	2	0	0	123
	男女	21	20	23	14	8	5	5	5	1	0	0	102
	計	54	44	48	29	19	11	10	7	3	0	0	225
合計		355	300	243	188	143	100	61	35	20	9	1	1455
死亡率		152.1	146.7	197.5	154.3	132.9	110.0	163.9	200.0	150.0	—	—	154.6
輝峻氏ノ調査		186.2	205.7	205.0	216.3	246.2	261.9	224.1	250.3	150.0	181.8	500.0	205.9

(其 二)

	第三子以下計	第四子以上第八子迄ノ計	合計 (第一子ヨリ第八子迄ノ)
子女數合計	898人	527人	1425人
死亡者計	146	76	222
死亡率	162.6	144.2	155.8
輝峻氏ノ調査	196.1	234.2	205.7

料ニ於テハ必ズシモ然ラズ。

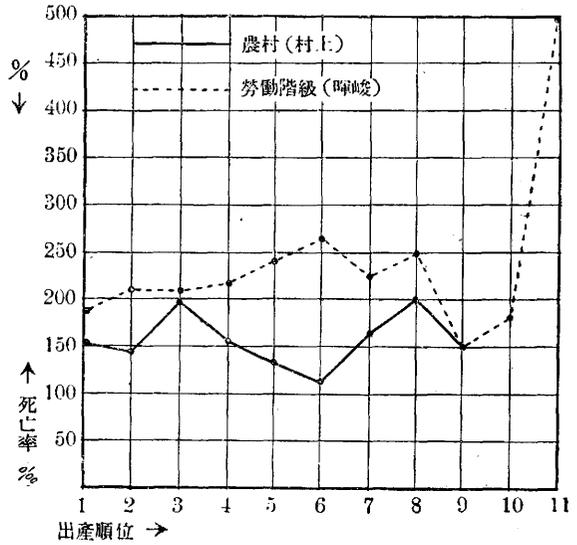
農村ニ於ケル本材料ニテハ子女ノ死亡率ハ労働者ノ子女ニオケルヨリモ一般ニ低ク、且出産順位トノ間ニモ明ナル關係ヲ認メ難シ。

又子女ノ第三子以下ノ死亡率ハ一六二・二%、第四子以上第八子迄ノ死亡率ハ一四四・二%ニシテ後者ハ反ツテ前者ヨリモ低シ。之ニ反シ労働者ノ子女ニアリテハ(10)第三子以下ノ死亡率ハ一九六・一%、第四子以上第八子迄ノ死亡率ハ、二三四・二%ニシテ後者ハ前者ヨリモ非常ニ高率ヲ示セリ。

以上ノ諸事實ハ大イニ注意

スベキ點ニシテ、之ガ果シテ農村ト労働者トノ間ニ存スル固有ノ差異ナルヤ否ハ尙今後ノ研究ニヨリテ決定セラルベキ問題ナリ。

第六圖 出產順位ト子女ノ死亡率



13、子女ノ數ニヨル配偶ノ分類
並ニソノ死亡率

本調査材料四百四配偶ノ子女總數ハ一四五五人ニシテ、内子女ナキモノハ四十九配偶、一兒乃至三兒ヲ有スルモノハ、一六七配偶ニシテ之ニ屬スル子女總數ハ三三四人ナリ。又四兒以上ノ子女ヲ有スルモノハ一八八配偶ニシテ之ニ屬スル子女總數ハ一一二人ナリ。即全子女數ノ七七%ハ四兒以上ノ子女ヲ有スル婦人ニ屬シ、三兒以下ノ子女ヲ有スル婦人ニ屬スル子女ハ全數ノ二三%ニ過ギズ。

又一方一三一三頁ニモ既ニ述ベタルガ如ク、三兒以下(無兒配偶ヲフクム)ノ子女ヲ有スル配偶ハ全配偶ノ五三・四七%ニ當リ、四兒以上ノ子女ヲ有スル配偶ハ全數ノ四六・五二%ニ當レリ。

即コノ兩者ノ數ハ殆ド近ク、子女多キ配偶ノ多キコトヲ示セリ。コレヲ労働階級婦人ノ成績⁽¹⁶⁾ニミルニ労働階級婦人ニアリテハ三回以下ノ出產婦人(無兒婦人ヲフクム)ハ全數ノ七五・六%、四兒以上ノモノハ、二四・四%ニシテ比較的子女多キモノハ僅ニ二四%ニ過ギズ。コノ差異モ亦農村ト労働階級者トノ間ニ存スル固有ナル差異ナルヤ否直ニ論斷シガタキモ興味多キ點ナリ。

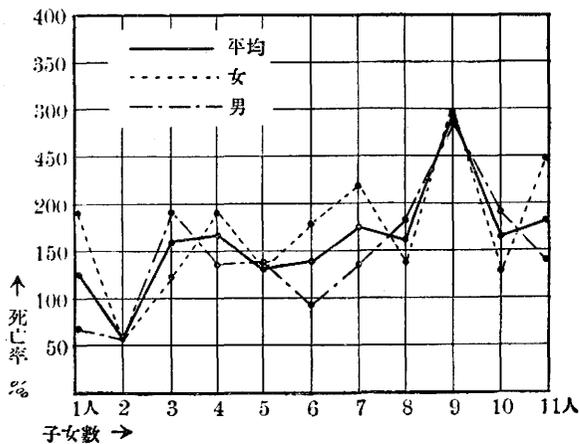
次ニコレ等子女數ニヨル分類ニツキテ子女ノ死亡率ヲミルニ、三兒以下ノ子女ヲ有スルモノニアリテハ、一一・六・八%、四兒以上ハ一六七・七%ニシテ配偶ノ有スル子女數増加スルニ從ヒ、ソレ等子女ノ死亡率モ亦増加セリ。(第二十三表參照)

且ソノ子女ノ男女性別ニヨル死亡率ヲミルニ男兒ノ死亡率ハ女兒ノ死亡率ヨリモ一般ニ高シ、即前者ハ一六五・五%ニシテ後者ハ一四六・二%ナリ。
 以上ノ結果ヲ曲線ニテ表ハセバ第七圖ノ如シ。

第二十三表 子女數ト死亡率

子女數	配偶數	生存者			死亡者			合計	死亡率		
		男	女	計	男	女	計		男	女	計
無兒	49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1人	55	21	27	48	5	2	7	55	192.3	69.0	127.3
2人	57	54	54	108	3	3	6	114	52.6	52.6	52.6
3人	55	76	63	139	11	15	26	165	126.4	192.3	157.6
3人以上 以下小計	216	151	144	295	19	20	39	334	111.8	122.0	116.8
4人	45	80	70	150	19	11	30	180	191.9	135.8	166.7
5人	43	88	97	185	14	16	30	215	137.3	141.6	139.5
6人	39	106	95	201	23	10	33	234	178.3	95.2	141.0
7人	26	69	81	150	19	13	32	182	215.9	138.3	175.3
8人	15	51	50	101	8	11	19	120	135.6	180.3	158.3
9人	11	33	37	70	14	15	29	99	247.9	288.5	292.9
10人	8	34	33	67	5	8	13	80	128.2	195.1	162.5
11人	1	3	6	9	1	1	2	11	250.0	142.9	181.8
4人以上 以下小計	188	464	469	933	103	85	188	1121	181.7	153.4	167.7
1人—11 合計	404	615	613	1228	122	105	227	1455	165.5	146.2	156.0

第七圖 子女數ト死亡率



(二) 特殊ナル配偶ニツキテノ觀察

1、婚姻後二十ヶ年以上ヲ經タル配偶

ニ就キテノ觀察

特殊ナル配偶中先ヅ婚姻二十ヶ年以上ヲ經過シタル婦人ノミニツキテ觀察ヲ試ミタリ。四百四配偶中婚姻後二十ヶ年以上ノ婚姻生活ヲ持續セルモノハ一三二配偶ニシテ、全數ノ三二・七%ニ當レリ。

(1)、婚姻年齡ニヨル分類

婚姻後二十ヶ年以上ヲ經過セル一三二配偶ノ婦人ニツキ、ソノ婚姻年齡ニヨリ分類スレバ第二十四表ノ如シ。即コ

レニヨレバ其六二・九%ハ二十歳以前ニ於テ婚姻シ、二十歳以後ノ婚姻ハ急劇ニ減少セルヲ認ム。

(2)、無兒配偶數

婚姻後二十ヶ年以上ヲ經過セル婦人一三二人中子女ヲ有セザルモノハ(流産、死産ヲ取扱ハズ)一三人ニシテ全體ノ九八%ニ當レリ。モトヨリ、コノ數ハ流産及ビ死産ヲ取扱ハザルヲ以テ眞ノ意味ノ不妊婦數ニハ非ザルモ、今假ニ之ヲ日本及ビ歐米ニ於ケル不妊婦數ニ關スル報告⁽¹⁶⁾ノ結果ト比較スレバ第二十五表ノ如シ。即本調査ノ結果ハ暉峻氏ガ曩ニ勞働階級婦人ニツキテ調査セル結果ト殆ド全ク一致セリ。

(3)、婚姻年齡ト子女數

次ニ母ノ婚姻年齡ト子女數トノ關係ヲミルニ、第二十六表ノ如ク一八一—一九歳ニ於テ婚姻セルモノ最高ニシテ一人ニツキ六九二人ノ子女ヲ有シ、一七一—一八歳ニテ婚姻セルモノ之ニ次ギ六・六五人ナリ。大體ニ於テ一九歳未満ニテ婚姻セルモノガ高キ平均子女數ヲ示セリ。

全體トシテ觀察スレバ婚姻後二十ヶ年ニシテ平均一人ニツキ

第二十五表

地名	研究者	婚姻持續期間 又ハ年齡	不妊婦 %
和蘭	Verrijn Start	16ヶ年乃至20ヶ年	13.1
米國	—	50歳以上	11.9
獨乙	Oldenburg	25ヶ年以上	9.2
ノールウェー	—	—	6.8
ゴッペン ハーゲン	—	25ヶ年以上	11.5
日本	暉峻	20ヶ年以上 45歳以上	8.8 12.1
	村上	20ヶ年以上 45歳以上	9.8 12.2

第二十四表

母ノ婚姻年齡ニヨル分類

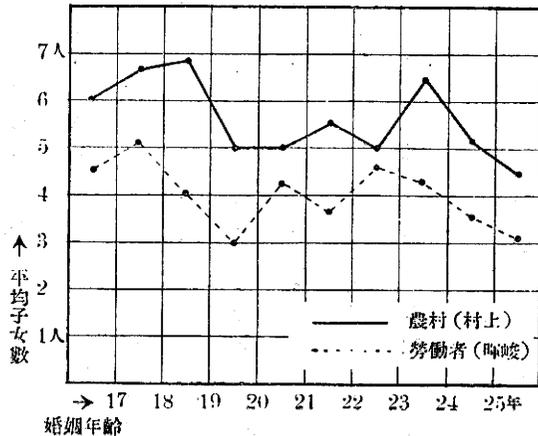
婚姻年齡	配偶數	%
15歳未満	7	5.3
15—20歳	76	57.6
20—25	37	28.0
25—30	9	6.8
30歳以上	3	2.3
合計	132	100.0

第二十六表 母ノ婚姻年齢ト子女數

婚姻年齢	一七歳未満	一七—一八	一八—一九	一九—二〇	二〇—二一	二一—二二	二二—二三	二三—二四	二四—二五	二五以上	計
1人	1	—	—	2	—	—	—	—	1	—	4
2	3	—	—	1	1	—	—	—	—	2	7
3	1	1	1	1	—	1	—	—	1	2	8
4	3	4	—	1	2	1	2	1	—	1	15
5	5	2	2	5	2	1	1	—	2	—	20
6	2	4	3	2	1	1	2	1	3	1	20
7	5	—	1	3	1	1	—	1	2	—	16
8	3	2	4	2	1	—	—	—	—	1	11
9	2	5	—	—	—	1	—	1	—	1	10
10	4	1	2	—	—	—	—	—	—	—	7
11	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
母ノ數	29	20	13	17	8	6	5	4	9	8	119
子女數合計	176	133	90	85	41	34	25	26	46	37	693
母1人ニ對スル平均子女數	6.07	6.65	6.92	5.00	5.01	5.67	5.00	6.50	5.11	4.63	5.82
禰峻氏調査	4.56	5.08	4.50	3.00	4.30	3.68	4.70	4.27	3.60	3.09	4.22

五八二人ノ子女ヲ有スル結果トナレリ。勿論之ハ單ニ婚姻持續期間二十ヶ年以上ノ婦人ヲ選ビタルノミニシテ、コノ中ニハ尙増殖能力アル婦人ヲフクムヲ以テ、各年齡階級ニオケル平均子女數ハ幾分増加スルモノト考フベキナリ。以上ヲ勞働階級婦人ニオケル調査ト比較スルニ第二十六表及ビ第八圖ノ如シ。即本調査ハ勞働者ニ於

第八圖 母ノ婚姻年齢ト平均子女數 (農村ト勞働階級トノ比較)



ケルヨリモ一般ニ平均子女數大ナル差アルノミニテ、兩者ハ殆ド近キ曲線ヲ示セリ。

(4)、平均子女數並ニ子女ノ死亡率

婚姻後二十ヶ年以上ヲ經過セル一三二人ノ婦人ヲソノ有スル子女數ニヨリテ分類スレバ第二十七表ノ如シ。

第二十七表

子女數ニヨル母ノ分類

子女數	母ノ數	%
子女ナキモノ	13	9.85
子女1人	4	3.03
〃 2	7	5.30
〃 3	8	6.06
3人以下 小計	32	24.24
子女4人	15	11.36
〃 5	20	15.15
〃 6	20	15.15
〃 7	16	12.12
〃 8	11	8.33
〃 9	10	7.58
〃 10	7	5.30
〃 11	1	0.76
4人以上 小計	100	75.75
合計	132	100.0

即ソノ結果ハ一三二四頁ニ述ベタル所ヲ更ニ明ニ示スモノニシテ、四兒以上ヲ有スル配偶ハ全數ノ約七六%ノ多キニ反シ、三兒以下ノモノハ僅ニ約二四%ニ過ギズ。

之ヲ要スルニ農村ニ於テ二十歳以前ニ婚姻シ婚姻生活二十ヶ年以上ニ

及ベル婦人ノ大多數ハ四兒以上ノ子女ヲ有スルコトヲ知ルナリ。

次ニ婚姻後二十ヶ年以上ヲ經タル配偶ニ於ケル一配偶ノ平均子女數ヲミルニ全體ノ場合ニハ平均五・二人ニシテ無兒配偶ヲ除ケバ五・八人トナル。又現存子女數ハ全體ノ場合ハ平均四・三人ニシテ無兒配偶ヲ除ケバ平均四・八人トナル。

次ニコレ等子女數ト死亡率トノ關係ヲミルニ、三兒以下ノ子女ノ死亡率ハ四十二人中六人即一四三%ニシテ、四兒以上ノ死亡率ハ六五〇人中一一九人、即一八三%ナリ。之ヲ勞動階級ニ於ケル調査ノ結果ト比較スルニ後者ニ於テハ三兒以下ノ子女ノ死亡率ハ約一五八%、四兒以上ノ死亡率ハ、二三〇%ニシテ一般ニ本調査ノ死亡率ハ勞動階級ニ於ケルヨリモ低シ。

又コノ子女ノ死亡率ヲ男女別ニ觀察スレバ男兒ハ三四一人中六四人即一八八%、女兒ハ三五一人中六一人、即一七四%ニシテ男兒ノ死亡率ハ一般ニ高シ。

2、婚姻後二十ヶ年以上ヲ經過シタル年齢四十五歳以上ノ婦人ニツキテノ觀察

婚姻後二十ヶ年以上ヲ経過シ且年齢四十五歳以上ノ婦人ハ調査總數四〇四人中九〇人、即二二・八%ニ當レリ。
 コノ九〇人ハ既ニ増殖生活ノ末期ヲ終ラントスルモノニシテ、コレ等ニツキ、ソノ有スル平均子女數並ニソノ不妊
 婦數ヲ觀察スルコトハ又大イニ意義アルコトナリト信ジ以下之ヲ觀察セリ。

(1)、婚姻年齢ニヨル分類

婚姻年齢ニヨリテ、今コノ九〇人ノ婦人ヲ分類スレバ第二十八表ノ如クニシテ、二十歳迄ニ婚姻セルモノハ全數ノ
 五一・二%、二十五歳迄ニハ全數ノ八六七%ナリ。コノ結果ハ大略二三〇四頁及ビ二三二六頁ニ述ベタル結果ト殆ド
 大差ナキヲ認ム。

(2)、無兒配偶數

又以上ノ九〇人中全ク子女ヲ有セザルモノハ一人、即一二・二%ニシテ、之ヲ他ノ研究者ノ不妊婦數ト比較スルニ
 (第二十五表參照)本調査ノ結果ハ高率ナル部ニ屬セリ。

(3)、各年齢階級ニ於ケル子女數

以上ノ増殖生活ヲ終リ、又ハ終ラントスル婦人九〇人ニツキ、
 ソノ各年齢階級ニ於ケル子女數ヲミルニ(第二十九表參照)、二十
 歳乃至三十五歳ノ階級ハ出産頻度高く、殊ニ二十五歳乃至三十歳
 ヲ以テ最高ヲ示セリ。二十歳以前ニ於テハ極メテ少ク、三十五歳
 以後ハ又急劇ニ減少ス。コノ結果ハ勞働階級婦人ニ於ケル暉峻氏

第二十八表

女ノ婚姻年齢ニヨル分類

婚姻年齢	配偶數	%
15歳未満	4	4.4
15歳 - 20歳	42	46.7
20歳 - 25歳	32	35.6
25歳 - 30歳	9	10.0
30歳以上	3	3.3
合計	90	100.0

ノ成績ト殆ド一致セリ。

次ニ以上ノ九〇人ノ有スル子女總數ハ四二六人ニシテ一配偶ノ平均子女數ハ全體ノ場合ニハ平均四・七人、(勞働階
 級婦人ニテハ四・三人)無兒配偶ヲ除去セル時ニハ平均五・四人ナリ。

第三十表

十四歳以下ノ現存子女數

子女數ニヨル母ノ分類		母ノ數	百分比	14歳以下ノ子女總數	百分比
子女ナキモノ	初メヨリナキモノ	49	12.13%	—	—%
	一兒ノミチ有シ死亡セシモノ	7	1.73	—	—
	計	56	13.9 (22.3)	—	—
14歳以上ノ子女ノミチ有スルモノ		58	14.4 (4.8)	—	—
小 計		114	28.2 (27.1)	—	—
14歳以下ノ子女1人チ有スルモノ		68	16.8 (26.7)	68	8.9 (15.4)
〃 2人		82	20.3 (17.7)	164	21.4 (20.5)
〃 3人		66	16.3 (13.9)	198	25.8 (24.1)
小 計		216	53.5 (58.3)	430	56.1 (60.0)
〃 4人		43	10.6 (7.3)	172	22.5 (16.9)
〃 5人		22	5.4 (4.6)	110	14.4 (13.4)
〃 6人		9	2.2 (2.1)	54	7.0 (7.2)
〃 7人以上		0	— (0.6)	0	— (2.5)
小 計		74	18.3 (14.6)	336	43.9 (40.0)
合 計		404	100.0	766	100.0

() 内ノ數ハ輝峻氏調査

第二十九表

各年齢階級ニ於ケル子女數

母ノ年齢	出産子女數	百分比	輝峻氏ノ調査
20歳迄ノ出産	28人	6.6%	4.4%
20歳—25歳	90	21.1	23.4
25歳—30歳	102	23.9	25.3
30歳—35歳	97	22.8	23.5
35歳以上	109	25.6	23.4
計	426	100.0	100.0

原著 村上ハ農村家族ノ社會衛生學的考察

一三三〇一

又コレガ現存子女數ノミニツキテノ平均子女數ハ全體ノ場合ニハ平均三七人、(勞働階級婦人ニテハ三二人)無兒配偶ヲ除去セル時ニハ平均四三人ナリ。

以上増殖生活ヲ終リ、又ハ將ニ終ラントスル年齢ニ於ケル婦人ノミノ調査ニ於テ、各年齢階級ト子女數トノ關係ヲミルニ、ソノ結果ハ前述ノ婚姻持續期間乃至、婚姻年齢ノ上ヨリ全體ニツキテミタル結果ト大體ニ於テ一致セルハ注目ニ値スル所ナリ。

3、十四歳以下ノ子女ヲ有スル配偶ニツキテノ觀察

第三十一表 十四歳以下ノ子女ヲ有スル労働者世帯ト本調査トノ比較

子女數	日本		合衆國 正規世帯	合衆國 炭坑労働者 (16歳以下)	英 國	孟 買
	村 上 (農村)	野 嶮 (労働者)				
0人	16.2	23.4	19.0	13.1	53.1	10.2
1	19.7	28.0	23.1	14.4	16.2	26.7
2	23.7	18.6	24.2	16.8	12.5	34.2
3	19.1	14.6	17.7	15.9	8.4	18.7
4	12.4	7.7	11.2	13.4	5.5	10.2
5	6.4	4.8	4.8	10.6	2.8	0
6	2.6	2.2	0	7.4	1.0	0
7	0	0.7	0	4.3	0.4	0
8人以上	0	0	0	4.1	0.1	0
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(本調査404ノ婦人中14歳以上ノ子女ノミヲ有スル婦人58人ヲ除ク)

該表ニヨレバ十四歳以下ノ現存子女七六六人中三人以下ノ子女ヲ有スル配偶ニ屬スルモノハ四三・九%ニ當レリ。

次ニ十四歳以下ノ子女ヲ有スル労働世帯ト本調査トヲ比較スレバ第三十一表ノ如シ。

4、血族婚姻ニ關スル觀察

血族婚姻ハ遺傳形質ノ結合ニ都合ヨキ機會ヲ與フルモノニシテ血族婚姻ノ頻度並ニ近親度ヲ知ルコトハ遺傳ニ關スル研究上極メテ重要ナルコトナリ。然レドモ之ガ精細ナル調査ハ比較的困難ナル場合多ク且國及ビ宗教ノ異ルニ從ヒ

曩ニ暉峻氏ハ労働階級婦人ノ調査ニ於テ我國家庭ニオケル子女ノ年齢ヲ滿十四歳ヲ以テ境トシ、十四歳以前ハ不生産的從屬者ト見做シ、十四歳以後ヲ以テ生産的労働ニ參與シ、或ハ參與シ得ル年齢トセラレタリ。コノ十四歳ヲ境トセラレタル根據ニ就テハ何等明記セラレザリシガ、今余ハ之ヲ假ニ高等小學校卒業ノ時期ト見做サレタルモノト考へ、余モ亦本材料ニ於テ同様ノ觀察ヲ試ミタリ。

四〇四配偶中、子女ナキモノ及ビ十四歳以上ノ子女ノミヲ有スル配偶ハ一一四配偶、即僅ニ二八・二%ニシテ、十四歳以下ノ子女ヲ有スル配偶ハ二九〇配偶、即七一・八%ノ多キヲ占ム。

コレ等多數ノ配偶ハ現在大體ニ於テ不生産的從屬者タル子女ヲ有シ、ソノ重荷ヲ負ヒツツアル者ナリ。而シテ之ヲソノ有スル子女數別ニ表示スレバ第三十表ノ如シ。

又地理的關係ノ差異ニヨリ婚姻ニ關スル制度並ニ習慣ヲ異ニスルヲ以テ一地方ノ數ヲ以テ直チニ他地方ノソレヲ想像シガタキハ勿論各地方ノ血族婚姻ノ%ヲ以テ直チニ比較スルコト能ハザル場合多シ。

我國ニ於テハ三等親以內ノ近親婚姻ハ法律ヲ以テ禁ゼラルル所ニシテ一般血族婚姻ハ四等親以下ニオケル近親婚姻ナリ。

又地理的關係ニ於テ、一般ニ山、海、不毛ノ地等ニヨリテ他地方トノ交通障礙サルル處例ヘバ半島、島嶼ノ如キ處ノ住民間ニハ特ニ血族婚姻多シト稱セラル。

余ハ本調査材料ニ於テ先ヅ血族婚姻ノ頻度並ニ近親度ヲミント欲シ、四、五、六等親迄ノ血族關係ヲ觀察セリ。六等親以下ノ血族關係ニ至リテハ訊問調査ニヨリテモ明カナラザル場合多ク、調査ノ結果不確實ナルヲ以テ除去セリ。

ソノ結果ハ第三十二表ニ示ス如クニシテ四等親ノ頻度ハ一一・二%、五等親ハ四・二%、六等親ハ二・〇%ナリ。即近親婚姻ニ於テ四等親ハソノ率最高ク、五、六等親ト次第ニ減少セリ。コノ四等親ヨリ六等親迄ノ血族婚姻ノ全婚姻

第三十二表 血族婚姻ノ頻度並ニソノ子女數ト死亡率

血族婚姻	頻度		無兒配數		平均子女數		死亡率			女兒100人ニ對スル男兒數
	實數	百分比	偶數	一兒配數	全體ノ平均	無兒配ヲ除キタル場合	男	女	計	
四等親	45	11.1%	4	8	4.3	4.8	196.3	193.2	194.9	121.5
五等親	17	4.2	3	3	3.5	4.2	172.4	166.7	169.5	96.7
六等親	8	2.0	—	2	4.1	1.4	71.4	105.3	90.9	73.6
計	70	17.3	7	13	4.1	4.6	180.0	175.2	177.7	109.5
其他ノ婚姻	334	82.7	42	42	3.5	4.0	161.6	139.7	150.7	101.4
合計	404	100.0	49	55	3.6	4.1	165.5	146.2	156.0	102.9

ニ對スル率ハ一七三%ニ當リ、今日迄ニ報告セラレタルモノニ比シ高率ヲ示セリ。

之ハ前述ノ如ク本農村ハ四圍山ヲ以テカコマレ、近年ニ至ル迄他地方トノ交渉多カラズ、從來殆ド同村内ニ於テ婚姻ノ配偶ヲ選擇セシ關係上カクノ如ク高率ヲ示スモノナラン。

故ニ之ヲ以テ直チニ他ノ調査ノ結果ト比較スルハ當ヲ得ザルモ、今假ニ獨乙ノ農村ニ於ケル血族婚姻ノ頻度ト比較スレバ第三十三表ノ如シ。

第三十三表

日本及ビ獨乙ノ農村ニ於ケル血族婚姻ノ頻度

國名	日本	獨乙		
		G. Wulz	ウ	Spindler.
研究者	村上			
年代	1871-1927	1848-1922	1922	不詳
調査配偶數	404	16182	200	453
四等親%	11.1	0.60±0.06	1.00	2.00
五等親%	4.2	0.12±0.03	0.50	7.70
六等親%	2.0	0.57±0.06	1.50	—
計%	17.3	1.29±0.15	3.00	9.70

次ニ血族婚姻ニヨル配偶七〇組ニ於ケル平均子女數並ニソノ子女ノ死亡率、女兒百人ニ對スル男兒數ヲミルニ第三十二表ノ如シ。

(三)、標準世帯トシテノ一家五人說(一配

偶三兒說)ノ可否ニ就キテ

以上各項ニ分チテ觀察セル結果ニヨレバ四〇四配偶中子女ナキモノハ總數ノ一二・二%(四九配偶)一兒及ビ二兒ヲ有スル配偶ハ全體ノ一三・六%(五五配偶)及ビ一四・二%(五七配偶)ナリ。コノ三者ノ合計即二兒以下ノ子女ヲ有スル配偶ハ總數ノ三九・九%(一六六配偶)ニ當レリ。

次ニ三兒ヲ有スル配偶ハ全體ノ一三・六%(五五配偶)ニシテ四兒以上ヲ有スルモノハ全數ノ四六・五%(一八八配偶)ナリ。即三兒ヲ有スル配偶ハ僅ニ全數ノ一三・六%ニシギザルニ反シ、四兒以上ノ子女ヲ有スルモノハ全體ノ過半數四六・五%ヲ占ム。又二兒以下ノ子女ヲ有スルモノハ三兒ヲ有スルモノノ約三倍ヲ有セリ。コノ結果ト勞動階級婦人ニツキテ日本及ビ歐米ニテ、今日迄ニ報告セラレタル結果トヲ

第三十四表

日本並ニ各國ニ於ケル労働者ノ子女數ト本調査トノ比較

國名	日本		英國	佛國	白國	米國%
研究者	村上 (農村)	暉峻 (労働者)	ボレー 等 (労働者)	労働組合 (労働者)	ミドール (労働者)	ミリス (労働者)
子女ナ キモノ	12.13	22.3	30.2	38.4	31.7	18.3
1兒ヲ有 スルモノ	13.61	25.1	21.9	33.6	31.9	23.6
2ヶ	14.11	15.5	18.8	17.5	18.9	20.0
3ヶ	13.61	12.8	13.0	6.4	9.0	13.2
4ヶ	11.14	8.8	8.2	2.5	8.5 (4兒以上)	9.6
5ヶ	10.64	6.6	4.0	1.6 (5兒以上)	—	5.8
6ヶ	9.65	4.4	3.9 (6兒以上)	—	—	3.2
7ヶ	6.43	2.3	—	—	—	1.8
8ヶ	3.71	2.2 (8兒以上)	—	—	—	0.5
9ヶ	2.72	—	—	—	—	0.5
10ヶ	2.23 (10兒以上)	—	—	—	—	0.2

該表ニヨレバ、三兒ヲ有スルモノガ比較的少
 數ナル點ハ労働者ニ於ケル調査ノ結果モ、本調
 査ノ結果モ同一ナリ。然レドモ前者ニアリテハ
 二兒以下ノ子女ヲ有スル者多數ヲ占メ、四兒以
 上ノ子女ヲ有スルモノ少ナキニ反シ、本調査ニ
 於テハ之ト全ク反對ニ、二兒以下ノ子女ヲ有ス
 ルモノハ少數ニシテ四兒以上ノ子女ヲ有スルモ
 ノ過半數ノ多キニ及ベリ。コレ又大イニ注目ニ
 値スル所ナリト信ズ。

以上ノ結果ヲ更ニ數字ヲ以テ示セバ、三兒ヲ
 有スル配偶ハ佛國ノ六・四%最低ニシテ、本調査
 ノ一三・六%最高ナリ。

二兒以下ノ子女ヲ有スルモノハ佛國ノ八九・五%最高ニシテ白耳義ノ八二・五%、英國ノ七〇・九%、日本、暉峻氏ノ
 六二・九%、米國ノ六一・九%之ニ次ギ、本調査ノ三九・九%ハ最低ナリ。

四兒或ハソレ以上ヲ有スルモノハ佛國ノ四・一%ヲ最低トシ白耳義ノ八・五%、英國ノ一六・二%、日本、暉峻氏ノ二
 四・三%、米國ノ二四・九%ノ順ニシテ本調査ノ四六・五%ハ最高ナリ。

以上ノ數ヲミルニ、五人世帯ノ數ハ僅カニ全數ノ六・四%乃至二三・六%ニ過ギズ。労働者階級ニ於テハ大多數ノ家
 族ハ、(六一・九%—八九・五%)二兒以下ヲ有シ、本調査ノ農村ニ於テハ過半數(四六・五%)ハ四兒以上ノ子女ヲ有セリ。

即余ノ調査ノ結果ヨリ考察スルニ一家五人世帯(一配偶三兒説)ナル標準ノ理論的根據ハ薄弱ナリト云ハザルベカラズ。曩ニ暉峻氏が勞働階級婦人ノ調査ノ結果ヨリ一家五人世帯ノ理論的根據ナキコトヲ指摘セラレタルガ、ソノ理由ハ同氏ノ調査ノ結果、二兒以下ノ子女ヲ有スル家族ガ、ソノ大多數ヲ占メ、三兒ヲ有スルモノ少數ナリト云フニアリキ。然ルニ本調査ノ結果ハ之ト趣ヲ異ニシ、四兒以上ノ子女ヲ有スルモノ、ソノ大多數ヲ占メ、三兒ヲ有スルモノ少數ナル點ヨリ、一家五人世帯ノ根據薄弱ナリト云フニアルナリ。

故ニ社會全體乃至ハ國全體ノ立場ヨリ、コノ一家五人世帯ナル標準ノ適否ヲ論ゼントスルニハ、尙今後多數ノ研究ノ結果ニマタザルベカラズ。

四、總括

以上各項ニ亘リテ述べタル所ヲ總括スレバ左ノ如シ。

農村家族四〇四配偶(初婚者ノミ)ニツキ調査シタル結果ハ

(一)、婚姻年齡

(1)、男子ハ十九歳ヨリ漸次婚姻ノ數ヲ増シ、二十三歳乃至二十五歳ニ於テ最高婚姻率ヲ示シ、二十五歳ヨリ、ヤ減少シ始メ、三十歳以後ニ於テハ更ニ減少セリ。而シテ二十五歳迄ニハ全數ノ約五九%婚姻シ、三十歳迄ニハ全數ノ約七〇%婚姻ス。

女子ニアリテハ十五歳ヨリ急ニ婚姻ノ數ヲ増シ、十七歳乃至二十歳ニ於テ最高婚姻率ヲ示シ、二十歳以後ハヤヤ急劇ニ減少セリ。而シテ二十歳迄ニハ全數ノ約六二%婚姻シ、二十五歳迄ニハ全數ノ約八五%婚姻ス。

(2)、夫妻相互ノ婚姻年齡ニ於テ、最モ多數ヲ占ムルモノハ、夫ハ二十歳乃至二十五歳、妻ハ十五歳乃至二十歳ノ組合セナリ。即男子ハ、ナルベク自己ヨリモ年下ニシテ、而モアマリニ年齡ノ隔リナキ者ヲ求メ、女子ハ自己ヨ

リモ同年以上ニシテ、シカモ餘リ年齡ノ差ナキモノニ嫁スル傾向アリ。

(3)、男女ノ平均届出婚姻年齡ハ男二四・八六年、女二〇・九五年ニシテ、男女婚姻年齡ノ差ハ三九一年ナリ。

届出婚姻年齡ト事實上ノ婚姻年齡トノ誤差ハ第一子出産ノ時期ヨリ或程度ノ補正ヲナシ得。

(4)、特殊配偶ト認ムベキ無兒配偶及ビ一兒配偶者ニアリテハ、一般ニ男女共婚姻年齡大ナリ。之ハ婚姻届出ノ時期ガオクルルニ基因スルモノナラン。故ニ眞ノ意味ニ於ケル、男女ノ初婚年齡ヲ知ル爲ニハ之等特殊配偶ハ除去シテ考慮スベキモノナリ。即之等特殊配偶ヲ除去セルモノニツキ、ソノ婚姻年齡ヲミレバ(3)ニ述ベタル届出婚姻年齡ハ男、二四・〇〇年、女二〇・二九年トナル。

(5)、年代的ニ男女婚姻年齡ヲ觀察スルニ、各年代ト共ニ男女共婚姻年齡ハ晩婚ニ傾キツツアリ。殊ニソノ度ハ男子ニ於テ甚ダシク、從ツテ男女婚姻年齡ノ差ハ次第ニ大ナラントシツツアリ。

(6)、職業別ニヨル、男女婚姻年齡ヲミルニ、農業者ハ其他ノ者ヨリハ一般ニ男女共早婚ナリ。農業者中ニ於テモ地主兼自作及ビ自作農ハ自小作及ビ小作農ニ比シ一般ニ早婚ナリ。

(二)、無兒配偶數

無兒配偶ハ總配偶四〇四中四九ニシテ二・一三%ニ當レリ。

婚姻持續期間二十ヶ年以上ヲ經タル配偶中ニ於テハ九八五%ヲ占ム。

婚姻持續期間二十ヶ年以上ニシテ年齡四十五歳以上ノ婦人中ニテハ二・二一%ヲ占ム。

(三)、婚姻持續期間ト子女數

一般ニ婚姻持續期間増加スルニ從ヒ、一配偶ノ平均子女數モ亦増加セリ。婚姻後五年乃至十年ヲ經タルモノハ約二・六人、十年乃至十五年ノ者ハ約四人、十五年乃至二十年ニテハ約五人、二十年以上ハ約五・三人ノ平均子女數ヲ有セリ。

コノ結果ハ、勞働階級婦人ニ於ケル成績ヨリハ一般ニ平均子女數大ナリ。

(四)、第一子出生時ノ父母ノ年齡

子女ヲ有スル三百五十五配偶ニツキ、ソノ第一子出生時ノ父母ノ年齡ヲミルニ父ハ二五・三二年、母ハ二一・四三年ナリ。

(五)、婚姻ヨリ第一子出生迄ノ年月

婚姻後一ケ年未滿ニ第一子ヲ出產セシモノハ、五八・九%、一ケ年ヨリ二ケ年未滿ノモノハ、一一・三%、二年以上ノモノハ一八・〇%ヲ示セリ。尙本材料ニ於テ注目スベキハ婚姻届出前ニ出產セルモノ、全體ノ一一・八%ニ及ベル點ナリ。

要之ニ第一子ノ出產ハ、大多數(七〇%)婚姻後二ケ年以内ニ出產セリ。

(六)、婦人ノ年齡ト子女數

(1)、婦人ノ婚姻年齡ト子女數

總配偶四〇四ノ材料中十七歲未滿ニテ婚姻セル婦人ノ平均子女數ハ最高ニシテ五・〇八人、十八歲乃至十九歲ハ之ニ次ギ四・七人、十七歲乃至十八歲ハ四・五六人ニシテ更ニ之ニ次ゲリ。

之ヲ要スルニ滿十九歲未滿ニ於テ婚姻セル者ガ高キ出產數ヲ示セリ。

又婚姻後二十ケ年ヲ經過セル婦人、及ビ婚姻後二十ケ年ヲ經過シ且四十五歲以上ノ婦人ニツキテモ、ホボ之ト同一ノ結果ニシテ、十九歲未滿ニ婚姻セルモノガ最モ高キ平均子女數ヲ示セリ。

(2)、婦人ノ年齡ト子女數

婦人ハ二十歲乃至三十歲ノ年齡階級ニ於テ出產數急劇ニ増加シ、更ニ三十歲乃至四十歲ノ年齡階級ニ於テ強キ増加ヲ示シ、コノ期ノ最後ニ於テ出產數ハ最高ニ達シ、次デ四十歲乃至五十歲階級ニ至リテ、ヤヤ低下セリ。

コノ婦人ノ年齡階級ニヨル出産數ト婚姻持續期間並ニ婚姻年齡ニヨル出産數トノ間ニハ密接ナル關係アルヲ認ム。

(七)、職業別ニヨル子女數

農業者ト其他ノ職業者トノ平均子女數ヲ比較スルニ農業者ノ平均子女數ハ一般ニ大ナリ。シカレドモ農業者中ニ於ケル自作、小作農別ニヨル平均子女數ニハ著明ナル差異ヲ認メズ。

其他ノ職業者中ニテハ平均子女數ハ頭腦労働者最モ少ク、商業並ニ輕労働者之ニ次ギ、重労働者ハ最モ大ナリ。出産ノ間隔

(八)、

第一子ヨリ第六子迄ニ至ル順次六出産ノ間隔ヲミルニ、第一子ト第二子ノ出産間隔以下、第五子ト第六子ノ間

隔ニ至ル迄最高率ヲ示スハ滿二ケ年以上滿三ケ年未滿ノ間隔ナリ。

大約八三%ノ婦人ハ皆滿二ケ年以上ノ出産間隔ヲ有シ、滿二ケ年未滿ノ間隔ノモノハ約一七%ニ過ギズ。第一

子ヨリ第六子ニ至ル迄ノ平均間隔年ヲ求ムルニ、第一子ト第二子間ハ三〇一年、第二子ト第三子間ハ三〇九年

第三子ト第四子間ハ二八一年、第四子ト第五子間ハ三二三年、第五子ト第六子間ハ二九九年ニシテ皆近似ノ

數ヲ示セリ。以上ノ總平均間隔年ハ三二〇三年ナリ。

(九)、子女ノ死亡率

農村ニ於ケル子女ノ死亡率ハ勞働階級ニ於ケルソレヨリモ一般ニ低シ。

(1)、子女數ト死亡率

三兒以下ノ子女ヲ有スル配偶ニ屬スル子女ノ死亡率ハ一六・八%ニシテ四兒以上ノモノハ一六・七・七%ナリ。即

配偶ノ有スル子女數増加スルニ從ヒ、ソレ等子女ノ死亡率モ亦増加セリ。

次ニ子女ノ男女性別ニヨル死亡率ヲミルニ男兒ノ死亡率ハ女兒ノ死亡率ヨリモ一般ニ高シ。

(2)、出產順位ト死亡率

第三子以下ノ死亡率ハ一六二・二%、第四子以上第八子迄ノ死亡率ハ一四四・二%ニシテ、後者ハ反ツテ前者ヨリモ低シ。コノ點ハ勞働階級ニ於ケル結果ト反對ノ成績ナリ。

(十)、十四歳以下ノ子女ヲ有スル配偶ニツキテノ觀察

十四歳以上ノ子女ノミヲ有スル配偶ハ全數ノ僅ニ二八二%ナルニ反シ、十四歳以下ノ子女ヲ有スルモノハ全數ノ七一・八%ノ多キヲ占ム。

又十四歳以下ノ現存子女數七六六人中三兒以下ノ子女ヲ有スル配偶ニ屬スルモノハ五六・一%ニシテ四兒以上ノ子女ヲ有スル配偶ニ屬スルモノハ四三・九%ニ當レリ。

即農村ニ於テハ十四歳以下ノ所謂不生産的從屬者ヲ有スル家庭多キヲ知ルナリ。

(十一)、血族婚姻ニ關スル觀察

四等親ヨリ六等親迄ノ血族婚姻ノ頻度ヲ觀察スルニ、四等親ノ頻度ハ全體ノ一一・一%、五等親ハ四二・二%、六等親ハ二〇%ナリ。即近親婚姻ハ四等親ニ於テソノ率最高ヲ示シ、五、六等親ト次第ニ、ソノ數ヲ減ゼリ。

次ニ四等親ヨリ六等親迄ノ血族婚姻ノ全婚姻ニ對スル率ハ一七三%ニシテ、高率ノ部ニ屬セリ。

(十二)、標準世帯トシテノ一家五人說ノ可否ニツイテ

本調査材料ニ於テハ二兒以下ノ子女ヲ有スル配偶ハ全數ノ三九・九%ニシテ、三兒ヲ有スルモノハ全數ノ僅ニ一三・六%ニ過ギズ。然シテ四兒以上ノ子女ヲ有スルモノハ全數ノ四六・五%ノ多キヲ占ム。

之ヲ要スルニ一配偶ニ二兒ヲ有スルモノハ全數ノ僅ニ一三・六%ニ過ギズシテ一家五人世帯、一配偶三兒說ナル標準ニハ理論的ノ根據ハ認メガタシ。

五、結 論

今回余ノ調査シタル範圍ニ於テ結論スレバ左ノ如シ。

一、本調査農村ニ於テハ男女共一般ニ早婚ナリ。

二、本調査農村ニ於テモ、年代的ニハ男女共婚姻年齡增大ニ傾キツツアリ。而モソノ度ハ男子ニ於テ甚ダシ。

三、本調査農村ニ於ケル無兒配偶率ハ九八%乃至一二二%ノ間ニアリ。

四、本調査農村ニ於テハ第一子ノ出産ハ過半数、婚姻後一ケ年以内ニ於テ出産セリ。

五、本調査農村ニ於ケル平均子女數ハ一般ニ大ニシテ、且十四歳以下ノ子女ヲ有スル家庭多シ。

六、婦人ノ年齡階級ニヨル出産數ト婚姻持續期間並ニ婚姻年齡ニヨリテ分チタル出産數トノ間ニハ密接ナル關係アルヲ認ム。

七、出産ノ間隔ハ滿二ケ年乃至滿三ケ年未滿ノモノ大多數ヲ占メ、大約八三%ノ婦人ハ二ケ年以上ノ出産間隔ヲ有セリ。滿二ケ年未滿ノ出産間隔ノモノハ、僅ニ一七%ニスギズ。

又各出産順位間ニ於ケル平均間隔ハ殆ド同一ニシテ約三年ナリ。

八、本調査農村ニ於ケル子女ノ死亡率ハ労働者ノ子女ノ死亡率ヨリモ低シ。而シテ男兒ノ死亡率ハ女兒ノ死亡率ヨリモ大ナリ。

九、本調査農村ニ於テハ血族婚姻ノ頻度ハ大ナリ。

十、標準世帯トシテノ一家五人說ノ理論的根據ハ本調査ノ範圍内ニ於テハ認めガタシ。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲トヲ賜リタル星野教授ニ對シ衷心ヨリ感謝シ、併セテ本調査ニ當リ多大ノ便宜ヲ與ヘラレタル穗原村役場ノ各位ニ感謝ノ意ヲ表ス。(昭和三年七月六日脱稿)

文 獻

- 1) **Rainer Fetscher** : Zur Frage der Knabenziffer beim Menschen. Archiv für Rassen-u. Gesellschafts-Biologie. 15. Bd. 3. Heft. S. 233.—249. 1924. 2) **原田隆** : 結婚後初回分娩ニ至ル時期ニ關スル統計的報告、中外醫事新報、第733號、p. 1312—1317. 明治43年10月。 3) **ノルマン・ヘーア** : 家族ニ於ケル位置ト兒童ノ健康、The Lancet. October 14. 1922. (抄)中外醫事新報、第1023號、p. 140. 大正12年1月。 4) **古山利雄** : 貧富別及職業別ヨリ觀タル生出生率及婚姻年齡ノ研究、社會學雜誌、第13號、p. 50—74. (大正14年5月)、第15號、p. 47—67. (大正14年7月)。
- 5) **A. Grotjahn** : Soziale Pathologie. Berlin 1915. 6) **南崎雄七** : 本邦農村衛生ノ觀察、日本之醫界、第14卷、第42號、p. 16. (大正13年11月) 同、第15卷、第59號、p. 8. (大正14年7月) 同、第15卷、第62號、p. 8—9. (大正14年8月)。 7) **水谷良一** : 勞働階級ノ世帯人員、統計集誌第522號、p. 22—29. (大正14年1月) 同、第523號、p. 29—36. (大正14年2月)。 8) **內閣統計局** : 明治32年日本帝國人口動態統計概説、明治36年5月、同 : 父母ノ年齡ト生出トノ關係、調査資料第一輯、(昭和2年8月)、同 : 大正十五年、昭和元年我國平均婚姻年齡、統計集誌第558號、p. 43—46. (昭和3年1月)。 9) **鳴海康仲** : 受胎ノ周期性ニ就テ、東京醫事新誌、第2455號、p. 8—16 (p. 270—278) 大正15年1月、同 No. 2547. p. 1—18. (p. 2013—2030) 昭和2年11月。 10) **岡崎文規** : 婚姻年齡ノ統計的研究、人口統計研究全、第一編二、p. 25—67. (大正14年11月) 經濟論叢、第16卷、第1. 6. 號、(大正12年4月) 同 : 特殊婚姻率ニ就テ、人口統計研究全、第一編三 p. 67—84. (大正14年11月) 同 : 戶籍上ノ婚姻年齡ト事實上ノ婚姻年齡、人口統計研究全、第一編四、p. 84—106. (大正14年11月) 同 : 配偶關係ト職業、人口統計研究全、第一編五 p. 106—124. (大正14年11月) 同 : 双生兒ノ出産ニ就テ、人口統計研究、第三編十二、p. 186—191. (大正14年11月)*生理學研究、第2卷、第4號 (大正14年4月)。
- 11) **下條康齋** : 出生兒ト父母ノ年齡トノ關係、統計學雜誌、第496號(抄) 兒童研究 第31卷 第8號 p. 201—202. (昭和2年11月)。 12) **末弘嚴太郎** : 民法講話(上卷)第七章、p. 287—338. (大正15年6月)。 13) **高田保馬** : 社會階級別ト出生率トノ關係、經濟論叢、第2卷、第5號 p. 1—28. (大正5年5月)。 14) **高野岩三郎** : 本邦結婚統計一斑、統計學研究全、六 p. 90—120. (大正9年12月)* 法學協會雜誌、明治40年11月號 同 : 本邦出生統計一斑、統計學研究全、八 p. 142—159. (大正9年12月)* 國家學會雜誌、明治41年6月號 同 : 本邦人口ノ平均婚姻年齡、統計學研究全、十一 p. 188—246. (大正9年12月)* 和田垣教授在職二十五年紀念經濟論叢 (大正3年10月)。 15) **財部靜治** : 夫婦婚姻年齡ノ組合セ、社會統計論附錄新編七、p. 480—494. (大正13年11月)* 經濟論叢、第1卷、第2號 (大正4年8月)。 16) **暉峻義等** : 勞働階級婦人ノ出産ニ關スル調査報告、勞働科學研究、第2卷、第2號 p. 1—50. (p. 243—292) (大正14年9月) 社會醫學雜誌、第465號 p. 553—568. (大正14年10月) 同 第466號 p. 668—678. (大正14年11月) 社會衛生學 p. 239—279. (昭和2年1月) 同 : 我邦出産率ノ社會生物學的觀察、勞働科學研究、第1卷、第2號、p. 1—71. (大正13年9月) 社會衛生學 p. 179—237. (昭和2年1月)。
- 17) **Westermarck** : The History of Human Marriage. Vol. II. p. 517

—536. 1921. 18) **Gustav Wulz** : Ein Beitrag zur Statistik der Verwandtenehen. Archiv für Rassen-u. Gesellschafts-Biologie 17. Bd. 1. Heft s. 82—95. 1925.

参 考 文 獻

- 19) 有馬頼重、稻田昌植：農民雜村ノ研究、大正13年7月。 21) **Lenz, F** : Die Bedeutung der statische ermittelten Belastung mit Blutsverwandtschaft der Eltern. Münchener medizinische Wochenschrift. Nr. 47. S. 131—1342. 1919. 21) 中村襄：血族結婚ノ其子孫ニ及ブ影響、國家醫學雜誌、第286號 p. 21—36 (明治44年2月) 同、第287號 p. 21—36. (明治44年3月) 同、第288號 p. 23—49. (明治44年4月)。 22) 齋藤潔：東京市ニ於ケル出生數ト死亡數ニ關スル調査、衛生學傳染病學雜誌、第21卷、第2號 p. 50—54. (p. 162—166) (大正14年10月)。 23) **ゲー・シユワルツ** : 女子年齡ト第一妊娠トノ關係、Zentralblatt für die gesamte Medizin. Nr. 24. Juni. 1924. (抄)社會醫學雜誌、第160號 p. 274—275. (大正14年5月)。 24) 戸田貞三：家族ノ研究、大正15年6月、二、夫婦關係ノ強サノ測定(離婚ニ關スルニ研究) p. 37—72. 及ビ社會學雜誌、第1號 (大正13年5月號) 九、家族構成ニ就テ、p. 331—374. 25) **W. Weinberg** : Verwandtenehen und Geisteskrankheiten. Archiv für Rassen-u. Gesellschafts-Biologie. 4. Jahrgang S. 470—475. 1907. * 直接見ルコトヲ得ザリシモノ。